

科目区分	専門教育科目 専門科目 看護の本質と看護技術			聴講	可
授業科目名	看護学概論	科目必修	可	単位互換	否
科目番号	N11001	クラス番号	N1		
授業形式	講義	必修選択区分	必修		
開講時期	1年次 前期 Semester	単位	2単位 30時間		
科目責任者	吉富美佐江	その他			
担当教員	学部長、吉富美佐江、巴山玉蓮、岩波浩美、小野寺洋子、木村美香、看護技術学教員				
授業の概要	講義、参加観察実習、演習を通し、看護・人間・健康・環境という看護学の基本概念を学ぶことにより、抽象的な概念と具体的な現象の連関を理解する。また、看護職・看護学の歴史的発展などを学習し、学際的学問としての看護学の特徴及び看護職と看護学との関係を理解する。さらに、看護の目標・対象、看護職の役割と機能を学習する。				
学科学科目標	目的：看護学の成り立ちと特徴を学習することを通し、看護学の基盤となる知識を習得する。 目標：1. 看護職・看護学の歴史的発展を学習することにより、看護学の基本概念である看護、人間、健康、環境について理解する。 2. 看護の目標、対象、役割と機能を理解する。 3. 看護学及びその実践の基礎となる理論の学習を通し、看護学の特徴を理解する。				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習(学習課題)	担当
	1	授業の目的・目標及び学習方法の理解 －本学のカリキュラムにおける看護学概論の位置づけ －大学で学ぶということ	講義	『大学で勉強する方法』『なせば成る』を精読する	学部長 吉富 岩波
	2	大学での学び方 －スタディスキル	演習	自己の学習方法の課題を明確にする	岩波
	3	I. 看護学における専門用語及び定義	講義	看護学における専門用語の定義を復習する	岩波
	4	II. 看護の起源 －太古の昔からある看護の機能 －看護の機能分化による看護職の成立		「職」「なりわい」という用語を辞書を用いて調べる	吉富
	5	III. 看護職の起源 －欧米における起源 －日本における起源		「役割」という用語を2つ以上の辞書を用いて調べる	吉富
	6	IV. 看護職の役割と機能(1) －役割とは何か －専門職の条件 －看護職の専門性		「概念」「現象」という用語を辞書を用いて調べる	吉富
	7	参加観察実習オリエンテーション		実習目標を再確認する	岩波
	8 9	参加観察実習：看護学の基本概念に関連した現象を含む相互行為場面を参加観察する	実習	観察した現象を看護学の基本概念と関連づけて記述する	グループ担当 教員
	10 11	演習：参加観察した結果を統合し、概念間の関連を理解する	演習	保健師助産師看護師法の第1章を精読する	
	12	IV. 看護職の役割と機能(2) －看護の対象 －看護職が活躍する場 －看護実践の法的根拠	講義	「学問」という用語を2つ以上の辞書を用いて調べる	吉富
	13	V. 看護学の特徴(1) －看護学の起源 －看護学の展望		『看護の基本となるもの』第2章を精読する	吉富
	14	V. 看護学の特徴(2) 看護実践を支える知識 －看護理論：ヘンダーソン看護理論とキング看護理論		「看護過程」という用語を辞書を用いて調べる	岩波
	15	V. 看護学の特徴(3) 看護実践の方法論 －問題解決的アプローチ(看護過程) 看護学概論総括		第1回から第15回の授業内容を復習する	吉富
	16	筆記試験			
	評価方法	参加観察実習・演習(40%)、筆記試験(60%)			
教科書	日本看護協会編：新版 看護者の基本的責務一定義・概念/基本法/倫理，日本看護協会出版会，2013。 ヴァージニア・ヘンダーソン著；湯楨ます他訳：看護の基本となるもの，日本看護協会出版会，2013。 A. W. コーンハウザー著；山口栄一訳：大学で勉強する方法，玉川大学出版会，2009。 山形大学基盤教育院編：スタートアップセミナー学修マニュアルなせば成る！改訂版，山形大学出版会，2013。				
参考文献等	ジョセフィンA. ドラン著；小野泰博他訳：看護・医療の歴史，誠信書房，1978。 フロレンス・ナイチンゲール著；薄井担子他訳：看護覚え書 改訂第7版，現代社，2011。 アイモジン・M. キング著；杉森みど里訳：キング看護理論，医学書院，1985。				
備考	特になし				

科目区分	専門教育科目 専門科目 看護の本質と看護技術			聴講	可
授業科目名	看護技術学概論	科目履修	可	単位互換	否
科目番号	N11002	クラス番号	N1		
授業形式	講義	必修選択区分	必修		
開講時期	1年次 後期 Semester	単 位	2単位 30時間		
科目責任者	肥後すみ子	そ の 他			
担当教員	肥後すみ子, 土井一浩, 田渕祥恵, 大川美千代, 佐藤正樹, 保坂さえ子, 高橋さつき, 服部美香, 高橋美穂子, 小野寺洋子				
授業の概要	技術という概念及び看護職の実践を支える看護技術の特徴とは何かを学習する。また、実際の看護技術提供場面を参加観察する実習を通し、様々な看護技術の特徴とそれらが複合される実際を学習する。さらに、看護技術と看護過程・看護理論の関係を学習し、看護技術の修得が、より効果的な看護を展開するためにいかに重要かを理解する。				
学 科 目 的 学 科 目 標	目的：看護技術の特徴とそれを支える要素を学習し、看護技術を修得する意義を理解する。 目標：1. 看護技術の定義を理解する。 2. 看護技術の構成要素を理解する。 3. 看護実践に共通する基本技術を理解する。 4. 看護技術の今日的課題を理解する。				
授業の内容 と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1	技術とは、看護技術の定義	講義	当日、資料を配布する。看護技術学の種類と定義を学習し関連性を考える。	肥後
	2	参加観察実習オリエンテーション	実習	演習後、レポート提出	肥後
	3・4	参加観察実習			肥後, 土井, 田渕, 大川, 佐藤, 保坂, 高橋さ, 服部, 小野寺
	5	参加観察実習後のまとめ	演習		
	6	演習の成果発表			
	7	看護技術学の定義と構成要素	講義	当日配布資料を復習する	肥後
	8	感染予防①	講義	教科書② P220-269を予習・復習する 演習後、自己評価表提出	田渕
	9	感染予防②	講義		田渕, 肥後, 土井, 大川, 佐藤, 高橋美
	10. 11	感染予防③	演習		
	12	ボディメカニクス①	講義	演習後、自己評価表提出	佐藤
	13	ボディメカニクス②	演習		佐藤, 肥後, 土井, 田渕, 大川, 高橋美
	14	看護技術と安全	講義	教科書② P271-296を予習する	土井
	15	看護技術学の課題と展望	講義	講義中に提示する学習課題に応じて、レポートを提出する	肥後
	評価方法	試験 50%, 演習レポート 10%, 参加観察実習 30%, 出席 10%			
教科書	深井喜代子編集:新体系 看護学全書 基礎看護学②基礎看護技術 I, メヂカルフレンド社, 2012.				
参考書 参考文献等	別途提示				
備 考	本科目は、看護技術学(各論 I~VI)に共通する技術である。そのことを意識して確実な知識、技術を学習してください。				

科目区分	専門教育科目 専門科目 看護の本質と看護技術			聴講	否	
授業科目名	看護技術学各論Ⅰ（アセスメント技術）		科目履修	否	単位互換	
科目番号	N11003	クラス番号	N1			
授業形式	演習	必修選択区分	必修			
開講時期	2年次 前期semester	単 位	2単位 60時間			
科目責任者	肥後すみ子	そ の 他				
担当教員	肥後すみ子, 山下暢子, 土井一浩, 田淵祥恵, 大川美千代, 佐藤正樹, 保坂さえ子, 高橋さつき, 服部美香, 高橋美穂子					
授業の概要	この授業においては、呼吸、循環、排泄、運動機能などの観察に必要な技術及びこれを活用したフィジカルアセスメントの実際を講義、演習を通して学習する。また、心理的側面の観察と査定、社会的側面の観察と査定について学習するとともに、実際のアセスメント技術提供場面を参加観察する実習を通し、看護実践に必要な多様なアセスメント技術とそれらにより獲得した情報を統合する意義を理解する。					
学 科 目 的 標	目的：対象の健康状態を把握するための基礎的な知識・技術を理解する。 目標：1. アセスメント技術の原理原則を理解する。 2. アセスメント技術を原理原則に基づいて実施し、技術を習得する。 3. アセスメント技術の実際を理解する。 4. 対象の持つ問題を理解するためにアセスメント技術を習得する意義を理解する。 5. 健康回復・維持促進および生活支援のための包括的アセスメントの基礎的な知識を理解する。					
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習 (学習課題)	担当	
	1	学科目ガイダンス：アセスメント技術 観察の技術と情報収集の実際	講義	・参考書 P2-20 を予習する	肥後	
	2	環境と安全に関するアセスメント	講義		大川	
	3	測定の技術と情報収集の実際①（身体計測）	講義		土井	
	4・5	測定の技術と情報収集の実際②（バイタルサイン）	講義		土井	
	6・7	測定の技術と情報収集の実際③（バイタルサイン）	演習	演習後、自己評価提出	土井, 大川, 佐藤, 田淵, 保坂, 服部, 高橋美	
	8	呼吸機能のアセスメント①	講義		大川	
	9	呼吸機能のアセスメント②	演習	演習後、自己評価提出	大川, 土井, 保坂, 佐藤, 肥後, 高橋美	
	10	循環機能のアセスメント①	講義		土井	
	11	循環機能のアセスメント②	演習	演習後、自己評価提出	土井, 田淵, 佐藤, 大川, 保坂, 服部, 高橋さ, 高橋美	
	12	運動機能のアセスメント①	講義		土井	
		運動機能のアセスメント②	演習	演習後、自己評価提出	土井, 大川, 佐藤, 肥後,	
	13	知覚機能のアセスメント①	講義		大川	
	14	知覚機能のアセスメント②	演習	演習後、自己評価提出	大川, 土井, 服部, 佐藤, 高橋さ, 高橋美	
	15	外皮・免疫機能のアセスメント	講義		大川	
	16	消化吸収機能のアセスメント①	講義		大川	
	17	消化吸収機能のアセスメント②	演習	演習後、自己評価提出	大川, 土井, 佐藤, 田淵, 高橋さ, 高橋美	
	18	参加観察実習オリエンテーション			肥後	
	19・20	参加観察実習	実習	実習後、レポート提出	肥後, 土井, 大川, 佐藤, 高橋さ, 保坂, 田淵, 服部, 山下	
	21	検体採取の技術と情報収集①			佐藤	
	22	検体採取の技術と情報収集②	講義		土井	
	23・24	採血の技術③	演習	演習後、自己評価提出	土井, 田淵, 佐藤, 大川, 保坂, 服部, 高橋さ, 高橋美	
	25	実技試験	演習	試験範囲提示後、自己学習を行う	肥後, 大川, 土井, 佐藤, 山下, 高橋さ, 保坂, 田淵, 服部, 高橋美	
	26	包括的アセスメントⅠ（身体の清潔）			佐藤	
	27	包括的アセスメントⅡ（運動と休息）			土井	
	28	包括的アセスメントⅢ（栄養と代謝）			肥後	
	29	包括的アセスメントⅣ（排泄・性と生殖）			大川	
	30	包括的アセスメントⅤ（心理・社会的支援）			肥後	
	評価方法	筆記試験 50%, 実技試験 30%, 参加観察実習 10%, 演習レポート 10% ※試験日時は別途指定する。				
	教科書	稲葉佳江・大日向輝美：看護ヘルスアセスメント、メヂカルフレンド社、2011。				
参考書等	小野田千枝子監修：実践！フィジカルアセスメント、金原出版、2004。 その他、授業で提示する。					
備考	本科目は看護技術学各論Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、Ⅵに関連する内容である。そのため以後に学習する看護技術学に活かせるようにしてください。					

科目区分	専門教育科目 専門科目 看護の本質と看護技術			聴講	否	
授業科目名	看護技術学各論Ⅱ（生活行動支援技術・生活機能維持促進技術）		科目履修	否	単位互換	否
科目番号	N11004	クラス番号	N1			
授業形式	演習	必修選択区分	必修			
開講時期	2年次 前期セメスター	単位	2単位 60時間			
科目責任者	肥後すみ子	その他				
担当教員	肥後すみ子, 山下暢子, 保坂さえ子, 高橋さつき, 土井一浩, 田淵祥恵, 大川美千代, 服部美香, 佐藤正樹, 高橋美穂子					
授業の概要	生活環境を整え、対象の持つ自然治癒力を高めるための技術、身体の清潔を保つための技術、食事を摂取し、栄養状態を保つための技術、排泄に関する技術等、対象の日常生活行動における不足部分を補う技術に関して、その技術を支える理論的知識と方法的知識を学習する。また、運動・知覚・循環・呼吸・排泄などの日常生活に必要な様々な機能を維持・促進するための技術に関して、その技術を支える理論的知識と方法的知識を学習する。さらに、これらの原則を学習する意義を理解するため、実際の生活行動支援技術・生活機能維持促進技術の提供場面に参加観察する実習を行う。					
学科目的 学科目標	目的：対象の安全・安楽な生活の支援に必要な基礎的看護技術とその技術を支える理論的知識と方法的知識を理解する。 目標：1.生活行動支援技術・生活機能維持促進技術の原理原則を理解する。 2.生活行動支援技術を原理原則に基づいて実施し、技術を習得する。 3.生活機能維持促進技術を原理原則に基づいて理解する。 4.生活行動支援技術・生活機能維持促進技術が提供される実際を理解する。 5.対象の安全・安楽な生活を支援するために生活行動支援技術、生活機能維持促進技術を習得する意義を理解する。					
授業の内容と 方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習 (学習課題)	担当	
	1	学科目ガイダンス	講義	・当日の配布資料から各自、学習計画を立てる。	肥後	
	2	住生活を支援する技術①	講義	・看護技術学概論「ボディメカニクス」、各論Ⅰ「環境と安全に関するアセスメント」、各論Ⅱ「住生活を支援する技術①」の復習 ・演習の振り返り用紙の提出	高橋さ	
	3・4	住生活を支援する技術②（ベッドメイキング）	演習		高橋さ、保坂、大川、土井、佐藤、田淵、高橋美	
	5	住生活を支援する技術③（シーツ交換）	演習	・演習の振り返り用紙の提出	高橋さ、保坂、大川、土井、佐藤、高橋美	
	6	住生活を支援する技術④（環境整備）	講義 演習		高橋さ	
	7	衣生活を支援する技術①	講義	・演習の振り返り用紙の提出	高橋さ、保坂、大川、土井、佐藤、服部、高橋美	
	8	衣生活を支援する技術②（和式寝衣の交換）	演習		保坂	
	9	生活空間の移動を支援する技術①	講義	・事前：教科書③P119～129を予習する ・事後：演習振り返り	保坂、高橋さ、佐藤、土井、大川、服部、高橋美	
	10	生活空間の移動を支援する技術②（車いす、ストレッチャー）	演習		肥後	
	11	清潔行動を支援する技術①（清潔とは）	講義	・事前：参考書②p136-158を予習する	保坂・肥後	
	12	清潔行動を支援する技術②（全身清拭、足浴）	講義		保坂、高橋さ、田淵、服部、佐藤、高橋美	
	13・14	清潔行動を支援する技術③（全身清拭）	演習	・事前：教科書③p153～158 ・演習後、レポート提出	肥後	
	15	参加観察実習オリエンテーション	講義		肥後、大川、土井、佐藤、高橋さ、保坂、田淵、服部、山下、高橋美	
	16・17	参加観察実習	実習	・事前：教科書②p150-151を予習する ・事後：レポート提出	肥後、保坂、高橋さ、佐藤、田淵、高橋美	
	18	清潔行動を支援する技術④（足浴）	演習		保坂・肥後	
	19	清潔行動を支援する技術⑤（口腔ケア、洗髪、陰部洗浄）	講義	・教科書②p151-165を予習する ・清潔行動を支援する技術⑤の復習・演習の振り返り用紙の提出	保坂、土井、佐藤、高橋さ、服部、高橋美	
	20	清潔行動を支援する技術⑦（口腔ケア）	演習		高橋さ	
	21	排泄行動を支援する技術①	講義	・演習の振り返り用紙の提出	高橋さ、保坂、大川、佐藤、田淵、高橋美	
	22	排泄行動を支援する技術②（床上排泄）	演習		肥後、保坂、高橋さ、佐藤、田淵、高橋美	
	23	清潔行動を支援する技術⑧（陰部洗浄）	演習	・事前：教科書②p152-153を予習する ・事後：レポート提出	肥後、大川、土井、佐藤、高橋さ、服部、高橋美	
	24	実技試験	演習		提示された試験範囲の練習	
	25・26	清潔行動を支援する技術⑥（洗髪）	演習	・事前：教科書③p158～161 ・事後：演習振り返り用紙の提出	保坂、土井、大川、佐藤、高橋さ、服部、高橋美	
	27	食行動を支援する技術①	講義		高橋さ	
	28	食行動を支援する技術②（食事介助）	演習	・各論Ⅰ「包括的アセスメントⅢ（栄養と代謝）」の復習 ・演習の振り返り用紙の提出	高橋さ、保坂、大川、佐藤、服部、高橋美	
	29	生命を助ける技術①（一次救命処置）	講義		保坂	
	30	生命を助ける技術②（一次救命処置）	演習	・事前：教科書②p354-370を予習する ・事後：演習振り返り用紙提出	保坂、土井、佐藤、高橋さ、田淵、高橋美	
	評価方法	筆記試験 50%、実技試験 30%、参加観察実習 10%、演習レポート提出 10%				
	教科書	深井喜代子編集：新体系 看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ，メヂカルフレンド社，2012.				
	参考書 参考文献等	深井喜代子，前田ひとみ編集：基礎看護学テキスト，EBN 思考の看護実践，南江堂，2011. 深井喜代子監修：「ケア技術のエビデンス」へるす出版				
備考	生活行動支援技術・生活機能維持促進技術は、「人体の構造と機能（解剖学，生理学）」の知識を必要とします。そのための事前学習を行って、授業に参加してください。					

科目区分	専門教育科目 専門科目 看護の本質・看護技術		聴講	否	単位互換	否	
授業科目名	看護技術学各論Ⅲ (治療過程支援技術、症状緩和技術)		科目履修	否	単位互換	否	
科目番号	N11005	クラス番号	N1				
授業形式	演習		必修選択区分	必修			
開講時期	2年次 前期セメスター		単位	2単位 60時間			
科目責任者	山下暢子		その他				
担当教員	山下、田淵、服部、肥後、土井、高橋さ、保坂、大川、佐藤、高橋美						
授業の概要	看護職者は、対象の持つさまざまな健康上の問題をより効果的に解決・回避するために本来ならば医師が行う治療上必要な行動を代行し、手術や検査などの治療を対象が円滑に受けられるようとする。また、対象の不安を軽減するために必要発熱、呼吸困難、排泄障害、見当識障害などを円滑に緩和するための技術を駆使し、常に対象の安全を第一に考慮する。この授業においては、これらの技術を実践し、これらを支える理論的知識と方法的知識を習得する。さらに、これらの提供される目的を理解するため、実際の治療過程支援技術・症状緩和技術の提供場面を参加観察する実習を行う。						
学 科 目 的 標	目的：対象の円滑な治療受け入れの支援に必要な基礎的看護技術とその技術を支える方法的知識と理論的知識を学習する。 目標：1. 治療行動代行技術、症状緩和技術の原理原則を記述する。 2. 治療行動代行技術を原理原則に基づいて実施する。 3. 症状緩和技術を原理原則に基づいて実施する。 4. 治療行動代行技術、症状緩和技術が提供される実際を理解する。 5. 1から4を通して、対象の持つさまざまな健康上の問題を効果的に解決・回避するために治療行動代行技術、症状緩和技術を習得する意義を見いだす。						
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習(学習課題)	担当		
	1	学科目ガイダンス	講義	事前に治療過程支援技術・症状緩和技術の定義を復習する。	山下		
	2	薬物療法の過程を支援する技術(総論)	講義	教科書②のp242-266を予習する。	山下		
	3	薬物療法の過程を支援する技術(注射)	講義	教科書②のp269-287を予習する。演習課題を提出する。	山下、田淵、服部、土井、高橋さ、保坂、大川、佐藤、高橋美		
	4	薬物療法の過程を支援する技術(筋肉内注射)	演習	教科書②のp287-305を予習する。演習課題を提出する。	服部		
	5	薬物療法の過程を支援する技術(点滴静脈内注射)	講義	教科書②のp178-191を予習する。	服部、山下、田淵、土井、高橋さ、保坂、大川、佐藤、高橋美		
	6	薬物療法の過程を支援する技術(点滴静脈内注射)	演習	講義中、提示する学習課題に応じ、学習成果を提出する。	田淵		
	7	症状緩和の基礎技術①「易感染性」	講義	教科書②のp78-92を予習する。演習課題を提出する。	田淵、山下、服部、土井、佐藤、高橋美		
	8	呼吸器症状(呼吸困難)を緩和する技術	講義	実習前、実習要項を復習する。無菌手袋の装着方法を復習する。	山下		
	9	呼吸器症状(呼吸困難)を緩和する技術	演習	実習後、課題レポートを提出する。	山下、肥後、高橋さ、大川、田淵、土井、保坂、服部、佐藤		
	10	参加観察実習オリエンテーション 無菌操作復習	講義 演習	教科書②のp194-197を予習する。演習課題を提出する。	服部		
	11,12	参加観察実習	実習	各自、選択した症状の発生機序やそれを緩和するための技術を学習し、発表する	山下、田淵、服部、佐藤		
	13	排泄機能の症状(排尿障害)を緩和する技術	講義	教科書②のp207-211を予習する。	田淵		
	14	排泄機能の症状(排尿障害)を緩和する技術	演習	教科書②のp194-197を予習する。演習課題を提出する。	服部、田淵、土井、大川、保坂、高橋さ、佐藤、高橋美		
	15・16 17・18	症状緩和の応用技術演習①②③④ 「浮腫・疼痛・褥瘡・不眠」	演習	教科書②のp38-48を予習する。	田淵、服部、土井、大川、高橋さ、佐藤、高橋美		
	19	症状緩和の基礎技術②「発熱」 症状緩和の応用技術①「発熱」	講義	教科書②のp71-77を予習する。	田淵、服部、山下、高橋さ、佐藤、高橋美		
	20	症状緩和の基礎技術②「発熱」	演習	講義中、提示する学習課題に応じ、学習成果を提出する。	山下		
	21	酸素療法の過程を支援する技術	講義	事前に課題となる技術を練習する。	山下、肥後、高橋さ、大川、田淵、土井、保坂、服部、佐藤、高橋美		
	22	酸素療法の過程を支援する技術	演習				
	23	栄養療法の過程を支援する技術	講義				
	24	栄養療法の過程を支援する技術	演習				
	25	排泄機能の症状(便秘)を緩和する技術	講義				
	26	排泄機能の症状(便秘)を緩和する技術	演習				
	27,28	手術療法の過程を支援する技術	講義				
	29	救命治療の過程を支援する技術 統合	講義				
	30	実技試験	演習				
	評価方法	筆記試験 40%、実技試験 20%、参加観察実習 20%、症状緩和技術演習 20% 試験日時は別途指定する。					
	教科書	①深井喜代子編集：新体系 看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ第3版、メヂカルフレンド社、2012 ②深井喜代子編集：新体系 看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ第2版、メヂカルフレンド社、2012					
	参考文献等	深井喜代子、前田ひとみ編集：基礎看護学テキスト、EBN 志向の看護実践、南江堂、2006 阿曾洋子、井上智子、氏家幸子：基礎看護技術第7版、医学書院、2011					
	備考						

科目区分	専門教育科目 専門科目 看護専門職の役割と機能			聴講	否
授業科目名	看護技術学各論Ⅳ (心理的支援技術・教育的支援技術)		科目履修	否	単位互換
科目番号	N11006	クラス番号	N1		
授業形式	演習	必修選択区分	必修		
開講時期	2年次 後期セメスター	単位	2単位 60時間		
科目責任者	山下暢子	その他			
担当教員	山下、保坂、高橋さ、服部、肥後、土井、田淵、大川、佐藤、高橋美				
授業の概要	看護職者は、対象が自ら問題を克服するために必要な心理的・教育的支援を行っている。この授業においては、これらの支援に必要な基礎的技術とこれを支える理論的知識と方法論的知識を学習する。また、その過程を通して対象自らが主体的に自己の健康上の問題を克服できるように支援する意義を理解する。さらに、これらを学習する意義を理解するため、実際の心理的支援技術の提供場面に参加観察する実習を行う。				
学 科 目 的 標	目的：対象が自ら問題を克服するために必要な心理・教育的支援のための看護技術とその技術を支える理論的知識と方法論的知識を学習する。 目標：1. クライアントに心理的な支援を行うために活用できる技術を学術的な原理原則に基づいて実施する。 2. クライアントに教育的な支援を行うために必要な技術を原理原則に基づいて実施する。 3. 看護実践において心理的支援技術と教育的支援技術を活用する過程を理解する。 4. 1. から 3. を通して、対象自らが主体的に自己の健康上の問題を克服できるように支援するために心理的支援技術と教育的支援技術を習得する意義を見出す。				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習(学習課題)	担当
	1	学科学目ガイダンス 心理的支援技術の基礎知識	講義	講義中、提示する学習課題に応じ、学習成果を提出する。	山下
	2, 3	心理的支援技術①② (ヘルスカウンセリング)	講義 演習	演習終了後、課題レポートを提出する。	山下 山下、高橋さ、服部、保坂、佐藤
	4, 5	心理的支援技術③④ (補完代替療法、リラクゼーション)	講義	当日の配布資料を復習する。	保坂
	6	参加観察実習オリエンテーション	講義	実習前、実習要項を復習する。	山下
	7, 8	参加観察実習	実習	実習後、課題レポートを提出する。	山下、肥後、高橋さ、大川、田淵、土井、保坂、服部、佐藤
	9, 10	心理的支援技術⑤⑥ (リラクゼーション)	演習	演習終了後、課題レポートを提出する。	保坂、山下、服部、佐藤
	11, 12	心理的支援技術⑦⑧ (健康行動理論)	講義 演習	演習終了後、演習ワークシートを提出する。	高橋さ 高橋さ、佐藤
	13, 14	心理的支援技術⑨⑩ (認知行動療法)	講義 演習	演習終了後、演習ワークシートを提出する。	高橋さ 高橋さ、佐藤
	15	教育的支援技術の基礎知識	講義	教育的支援技術演習①～⑤終了後、個人レポート、グループレポートを提出する。	服部
	16, 17	教育的支援技術① (教育内容、目的・目標の検討)	講義		服部
			演習		服部、保坂、高橋さ、土井、田淵、大川、佐藤、山下、高橋美
	18, 19	教育的支援技術② (教材の検討と作成、授業計画書の立案)	講義		服部
			演習		服部、保坂、高橋さ、土井、田淵、大川、佐藤、山下、高橋美
	20, 21	教育的支援技術③ (授業評価の方法検討)	講義		服部
			演習		服部、保坂、高橋さ、土井、田淵、大川、佐藤、山下、高橋美
	22, 23	教育的支援技術④ (模擬授業の実施)	演習		服部、保坂、高橋さ、土井、田淵、大川、佐藤、山下、高橋美
			講義		服部
	24, 25	教育的支援技術⑤ (授業の評価)	演習		服部、保坂、高橋さ、土井、田淵、大川、佐藤、山下、高橋美
			講義	山下	
26 - 30	心理的支援技術・教育的支援技術の統合	講義 演習	講義終了後、課題レポートを提出する。	山下 山下、高橋さ、服部、保坂、佐藤	
評価方法	心理的支援技術 30%、教育的支援技術 30%、心理的・教育的支援技術の統合 20%、参加観察実習 20%				
教科書	特になし				
参考文献等	宗像恒次：最新 行動科学からみた健康と病気，メジカルフレンド社，2009. 舟島なをみ監修：看護学教育における授業展開 質の高い講義・演習・実習の実現に向けて，医学書院，2013. 松本千明：医療・保健スタッフのための健康行動理論の基礎 生活習慣病を中心に，医歯薬出版株式会社，2002. 荒川唱子，小坂橋喜久代編集：看護にいかすリラクゼーション技法 - ホリスティックアプローチ，医学書院，2001.				
備考	特になし				

科目区分	専門教育科目 専門科目 看護専門職の役割と機能			聴講	否		
授業科目名	看護技術学各論Ⅴ（看護過程と看護理論）		科目履修	否	単位互換	否	
科目番号	N11007	クラス番号	N1				
授業形式	演習		必修選択区分	必修			
開講時期	2年次 後期 Semester		単 位	2単位 60時間			
科目責任者	山下暢子		そ の 他				
担当教員	山下、田淵、高橋さ、大川、肥後、土井、保坂、服部、小野寺、木村、佐藤、高橋美						
授業の概要	看護技術学各論において学習してきたさまざまな技術は、対象の個別性にあわせて正確に適用することによりはじめて、健康上の問題解決・回避あるいは健康状態の増進に結びつく。これらの技術提供を支える方法論が看護過程であり、看護職者は看護過程の展開を通して、対象の潜在的・顕在的な健康上の問題の解決と問題の回避、健康増進を目指す。また、方法論である看護過程は、看護理論に基づき展開する必要がある。この授業においては、看護過程展開のために必要な知識・技術・態度及び看護技術と看護過程・看護理論の関係を学習し、その具体的方法を統合的に理解する。さらに、個別的な看護実践の展開に向けて看護理論を活用する意義を理解するため、対象と看護師による実際の相互行為場面を参加観察し、理論を用いて説明する実習を行う。						
学 科 目 的 学 科 目 標	目的：科学的根拠に基づく看護を対象の個別性に応じて実践する方法を理解する。 目標： 1. 理論の成り立ち、看護理論の特徴と機能について理解する。 2. 看護過程の各段階と機能を明らかにする。 3. 看護技術と看護過程・看護理論の関係を学習し、看護過程の展開方法を理解する。 4. 1. から 3. をとおして、看護実践における看護理論・看護過程の重要性を見いだす。						
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	事前・事後学習 (学習課題)	担当		
	1	学科学目ガイダンス	講 義	講義中、提示する学習課題に応じ、学習成果を提出する。	山 下		
	2	看護理論概説	講 義		山 下		
	3, 4	ナイチンゲール「看護覚え書き」	講 義		田 淵		
	5, 6	ヘンダーソン「看護の基本となるもの」	講 義		大 川		
	7, 8	キング「キング看護理論」	講 義		山 下		
	9	看護理論演習（グループ演習）	演 習	グループごとに演習成果を資料としてまとめて提出する。	田淵、大川、高橋さ、土井、保坂、服部、佐藤、高橋美		
	10, 11	グループ演習成果発表	演 習	演習成果発表後、課題レポートを提出する。	田淵、大川、高橋さ、土井、保坂、服部、佐藤、高橋美、山下		
	12	看護過程概説	講 義	講義中に提示される課題に取り組み、次回に臨む。	山 下		
	13	看護過程（アセスメント）	講 義		高橋さ		
	14	看護過程（問題の明確化）	講 義		山 下		
	15	看護過程（計画）	講 義		高橋さ		
	16, 17	看護過程演習①②（事例 A-1 アセスメント）	演 習		演習グループ毎に提示される課題に取り組み、次回に臨む。	山下、高橋さ、大川、田淵、土井、保坂、服部、小野寺、木村、佐藤、高橋美	
	18	看護過程演習③（事例 A-1 問題の明確化）					
	19	看護過程演習④（事例 A-1 問題の明確化、計画）					
	20	看護過程演習⑤（事例 A-1 計画）					
	21	参加観察実習オリエンテーション	講 義	実習前、実習要項を復習する。	山 下		
	22, 23	参加観察実習	実 習	実習後、課題レポートを提出する。	山下、肥後、高橋、大川、田淵、土井、保坂、服部、佐藤		
	24	看護過程（事例 A-1 評価、まとめ）	講 義	看護過程演習終了後、演習成果をまとめて提出する。	山 下		
	25	看護過程演習⑥（事例 A-2 アセスメント）	演 習		山下、高橋さ、大川、田淵、土井、保坂、服部、小野寺、木村、佐藤、高橋美		
	26	看護過程演習⑦（事例 A-2 問題の明確化）					
	27	看護過程演習⑧（事例 A-2 問題の明確化）					
	28	看護過程演習⑨（事例 A-2 計画）					
	29	看護過程（統合）	講 義		山 下		
	30	看護過程演習⑩（事例 A-2 まとめ）	演 習		山下、高橋さ、大川、田淵、土井、保坂、服部、小野寺、木村、佐藤、高橋美		
	評 価 方 法	演習 70%【内訳 看護理論演習 25%、看護過程演習 45%】、出席状況 10%、参加観察実習 20%					
	教 科 書	フローレンス・ナイチンゲール著：湯植ます他訳：看護覚え書き 改訂第7版、現代社、2011。 ヴァージニア・ヘンダーソン著：湯植ます・小玉香津子訳：看護の基本となるもの、日本看護協会出版会、2006。 アイモジン・キング著：杉森みどり訳：キング看護理論、医学書院、1985。 秋葉公子他：看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践 第4版、ヌーヴェルヒロカワ、2013。					
	参 考 書 参 考 文 献 等	R. アルファロ・ルフィーヴァ著：本郷久美子訳：基本から学ぶ看護過程と看護診断 第7版、医学書院、2012。					
	備 考	特になし					

科目区分	専門教育科目 専門科目 看護専門職の役割と機能			聴講	否
授業科目名	看護技術学各論VI (実習)	科目履修	否	単位互換	否
科目番号	N11008	クラス番号	N1		
授業形式	実習	必修選択区分	必修		
開講時期	2年次 後期semester	単 位	2単位 90時間		
科目責任者	山下暢子	そ の 他			
担当教員	山下、肥後、土井、高橋さ、保坂、田淵、服部、大川、小野寺、木村、佐藤				
授業の概要	病院に入院し生活している 1名の対象を受け持ちアセスメントから看護目標の設定、計画立案、実施、評価の一連の過程を経験する。また、特に実施段階においては、これまで習得した技術の提供を通して、看護技術を個別化することの実際と意義を学習する。さらに、看護の目標を達成し、対象の健康状態の維持・向上を図るためには、科学的根拠に基づく実践が重要であり、看護学がこれを支える基盤になっていることを理解する。				
学 科 目 的 学 科 目 標	<p>目的：看護技術学概論から各論を通して学習した内容を統合するために、現実の環境において生活する対象に看護過程を展開する。この過程を通して科学的根拠に基づく看護を対象の個性に応じて実践する意義を認める。</p> <p>目標：1. クライアント1名を対象としてアセスメント、看護問題・共同問題の明確化、看護目標の設定、計画立案、実施、評価という一連の過程を実際に経験する。 2. 1.を達成する過程に基づき、看護理論を適用し看護技術を個別化する方法を理解する。 3. 1.2.を達成する過程を通して、看護職には看護の目標達成に向けて科学的根拠と高い倫理観に基づき看護実践を展開する責任があることを確認する。</p>				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1, 2	実習オリエンテーション	講 義	<ul style="list-style-type: none"> ・日々、①学習計画用紙を提出する。提出後、できるだけ早く教員のコメントを記載した①学習計画用紙の返却を受ける。 ・実習終了後、①学習計画用紙、②実習記録、③レポートを作成し、担当教員へ提出する。 	山下、保坂
	3, 4	グループ別オリエンテーション	演 習		
	5-43	フィールドにおける実習 (1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9)	実 習		山下、肥後、土井、高橋さ、保坂、田淵、服部、大川、小野寺、木村、佐藤
44, 45	統合カンファレンス	演 習			
	<p>【期間】 第1クール 平成27年2月9日(月)より2月20日(金) 学生約40名が実習 第2クール 平成27年2月23日(月)より3月6日(金) 学生約40名が実習</p> <p>【場所】 第1クール 前橋赤十字病院 6病棟 群馬県立心臓血管センター 4病棟 第2クール 前橋赤十字病院 8病棟</p> <p>【内容・方法】 病院に入院し生活している 1名の対象を受け持ちアセスメントから看護目標の設定、計画立案、実施、評価の一連の過程を経験する。</p>				
評価方法	行動目標の達成状況 100%				
教科書	特になし				
参考書 参考文献等	看護技術学概論、各論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴの配布資料				
備 考	原則として、看護技術学概論および看護技術学各論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの単位を取得し、かつ看護技術学各論Ⅳ・Ⅴの単位取得の見込みがあることを履修の条件とする。				

科目区分	専門教育科目 専門科目 看護の本質と看護技術			聴講	可
授業科目名	看護倫理学		科目履修	可	単位互換 可
科目番号	N11009	クラス番号	N1		
授業形式	講義	必修選択区分	必修		
開講時期	3年次 前期 Semester		単 位	1単位 15時間	
科目責任者	肥後すみ子	そ の 他			
担当教員	肥後すみ子				
授業の概要	看護職者に必要な倫理の知識を学び、倫理的問題に直面したときに必要な行動を選択するための態度の基礎を学習する。また、実践看護における倫理原則の特徴とその遵守の重要性を理解する。				
学 科 目 的 学 科 目 標	<p>学科目的：生命倫理に関する基礎的理解に基づき、看護実践における倫理原則の特徴とその遵守の重要性を理解する。</p> <p>学科目標：1. 看護実践において看護師が遭遇する倫理的問題を理解する。 2. 看護実践における倫理原則を理解する。 3. 看護師の倫理的責任を理解する。 4. アドボケーターとしての看護師の役割を理解する。 5. 看護師として倫理的な行動をとることの重要性を理解する。</p>				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1	看護実践において遭遇する倫理的問題	講義 演習	適宜指示	肥後
	2	看護者の倫理綱領			
	3	看護実践における倫理原則			
	4	看護師の倫理的責任と看護行為			
	5	患者の権利と自己決定			
	6	アドボカシー			
	7	患者の権利と自己決定を支援する他職種との協働			
評価方法	出席状況(30%)、レポート(70%)				
教科書	なし				
参考書 参考文献等	別途提示				
備 考	1年次に履修した「生命倫理」を復習しておいてください。				

科目区分	専門教育科目 専門科目 看護の本質と看護技術			聴講	可
授業科目名	看護対象擁護論	科目履修	可	単位互換	可
科目番号	N110010	クラス番号	N1		
授業形式	講義	必修選択区分	選択		
開講時期	4年次 後期 Semester	単 位	1単位 15時間		
科目責任者	肥後すみ子	そ の 他			
担当教員	肥後すみ子				
授業の概要	看護職者として倫理的な判断をするための基礎的能力を養うため、対象の人権とその擁護に関わる様々な事例を検討し、すべての看護職者に共通する役割としての対象擁護の本質及びその重要性を学ぶ。看護の質を保証するために看護実践における法と倫理の影響を学習し、対象の人権擁護における看護職の役割を理解する。				
学 科 目 的 学 科 目 標	<p>目的：看護の質を保証するために看護実践における法と倫理の影響を学習し、対象の人権擁護における看護職の役割を理解する</p> <p>目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 対象の人権が確立されつつある現在までの歴史的過程を理解する 2. 対象の人権擁護に関係する法律および倫理宣言を理解する 3. 医療・看護の現場において対象の人権がどのように侵害される恐れがあるのか理解する 4. 対象の人権を擁護するために看護職者としてどのように行動すればよいのか、理解する 5. 対象を擁護することの重要性を理解する 				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1～7	<p>学科目標の達成に向け、次のようなグループワークを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実習中、学生が遭遇した倫理的問題を含むと思われる事例を取り上げ、問題を明確化する。 ・ 文献から医療・看護の現場における人権侵害の事例を分析する。 ・ 看護職者がアドボケイトとしての役割を果たすための方法を検討する 	講義 演習	適宜指示	肥後
評価方法	授業への出席状況・積極性(30%)、レポート(70%)などにより総合的に評価する。				
教科書	なし				
参考書 参考文献等	授業において提示する。				
備 考	特になし				

科目区分	専門教育科目 専門科目 人間の生涯発達と看護			聴講	可
授業科目名	生涯発達看護学概論		科目履修	可	単位互換 否
科目番号	N12001	クラス番号	N1		
授業形式	講義	必修選択区分	必修		
開講時期	2年次 前期 Semester	単 位	2単位 30時間		
科目責任者	行田智子	そ の 他			
担当教員	行田智子、横山京子、田村文子、中西陽子、小川妙子				
授業の概要	「人間の発達と健康」を通して学習した人間の生涯発達の各段階における正常な健康状態および正常から逸脱した健康状態とその回復過程に関する学習を前提とする。人間が受胎から誕生し死に至るまでの身体・心理・社会的変化である生涯発達の特徴を踏まえ、その生涯発達における潜在的・顕在的な健康上の問題およびその解決に向けて必要な看護実践並びに看護職者の役割について学習する。				
学 科 目 的 学 科 目 標	<p>目的：対象の発達上の特徴を踏まえて看護を展開する意義を学習する。</p> <p>目標 1. 生涯発達看護学の特徴と理念を理解する。</p> <p>2. 各期における看護の対象および看護の目標を理解する。</p> <p>3. 各期に生じやすい健康問題が対象とその家族に及ぼす影響を理解する。</p> <p>4. 各期における人間の発達と健康の特徴を踏まえ個別的に看護を展開する必要性を理解する。</p> <p>5. 各期における看護職者の役割を理解する。</p>				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1	生涯発達看護学の観点、生涯発達看護学の定義、生涯発達看護学の対象・看護の目標・看護職者の役割	講義	事前：「人間の発達と健康」概論(母胎期)の復習 事後：各回の授業を復習し、レポートの母胎期をまとめる	行田
	2	母胎期にある胎児と胎児の発達に影響する母体の健康問題			行田
	3	母胎期にある対象の健康問題による家族への影響			
	4	母胎期の対象にかかわる看護職者の役割			
	5	乳幼児期・学童期にある対象の健康問題とそれに伴う症状・反応	講義	事前：「人間の発達と健康」概論(乳幼児・学童期)の復習 事後：各回の授業内容を復習し、レポートをまとめる	横山
	6	乳幼児期・学童期にある対象の健康問題による家族への影響			
	7	乳幼児期・学童期にある対象にかかわる看護職者の役割			
	8	思春期・青年期にある健康問題とそれに伴う症状・反応、健康問題による家族への影響	講義	事前：思春期・青年期の発達と特徴 事後：各回の授業内容を復習し、レポートをまとめる	田村
	9	思春期・青年期にある対象にかかわる看護職者の役割			
	10	成人期にある対象の健康問題とそれに伴う症状・反応	講義	事前：「人間の発達と健康」概論(成人期)の復習 事後：各回の授業内容を復習し、レポートをまとめる	中西
	11	成人期にある対象の健康問題による家族への影響			
	12	成人期にある対象にかかわる看護職者の役割			
	13	老年期にある対象の健康問題とそれに伴う症状・反応、健康問題による家族への影響	講義	事前：老年期に起こりやすい健康問題と特徴 事後：各回の授業内容を復習し、レポートをまとめる	小川
	14	老年期にある対象の看護職者の役割			
15	各期における看護の特徴と看護職者の役割 (グループディスカッション後、発表)	演習	事前：各期をまとめレポートを作成しておく。事後：グループディスカッション内容のレポートをまとめ提出	行田	
評価方法	出席状況及びレポート10%、講義終了後のテスト90%による総合評価				
教科書	指定なし				
参考書 参考文献等	授業中に資料を配付する。参考書等は必要に応じて授業中に提示する。				
備考	特になし				

科目区分	専門教育科目 専門科目 人間の生涯発達と看護			聴講	否	
授業科目名	生涯発達看護学各論Ⅰ（母胎期）		科目履修	否	単位互換	
科目番号	N12002	クラス番号	N1			
授業形式	演習	必修選択区分	必修			
開講時期	2年次 後期セメスター	単 位	2単位 60時間			
科目責任者	行田智子	そ の 他				
担当教員	行田智子、田村文字、河内美江、菱谷純子、橋爪由紀子					
授業の概要	「人間の発達と健康各論Ⅰ」において学習した母胎期にある人間の正常な健康状態及び正常から逸脱した健康状態とその回復過程に関する理解を前提とする。受精から誕生に至る人間（胎児）とこれを体内に宿した人間（妊産婦）の潜在・顕在する健康上の問題を回避し、妊娠・出産並びに新生児期における母子の健全な発達を支援する方法を家族への支援も含め学習する。また、この過程を通し、効果的な看護を展開するために研究成果に基づく知識・技術を活用する意義を理解する。					
学 科 目 的 学 科 目 標	目的：母胎期（妊娠・分娩・産褥・新生児）にある対象とその家族の健全な発達支援に向けて、個別性に応じた看護を展開する方法を学習する。 目標：1. 母胎期にある対象の潜在・顕在する健康状態をアセスメントする。 2. 母胎期にある対象の状態に応じた看護を理解する。 3. 看護およびアセスメントに必要な母胎期の看護技術を習得する。 4. 事例のアセスメントに基づき、対象の個別性に応じた看護過程の展開方法を学習する。					
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習 (学習課題)	担当	
	1	妊娠期にある対象への看護①：妊婦の観察に必要な情報収集の方法	講義 ・ 演習	事前：人間の発達と健康各論Ⅰ妊娠期の授業内容の理解 事後：授業内容の復習と教科書を熟読、課題提出、各論 p. 46-159、369-376	行田	
	2	妊娠期にある対象への看護②：妊娠期の基本的生活と相談、保健指導・相談に必要な知識、妊娠期の異常に対する看護			行田	
	3	妊娠期にある対象への看護③：妊娠期の心理・社会的行動、出産育児行動			行田	
	4	分娩期にある対象への看護①：分娩期の基礎知識と妊娠期における分娩への準備			人間の発達と健康各論Ⅰ分娩期の授業内容の理解 教科書p. 145-160	行田
	5	分娩期にある対象への看護②：分娩期の観察視点と看護			教科書各論 p. 162-235	行田
	6	分娩期にある対象への看護③：分娩期の異常に対する看護、母胎期の安全管理			教科書各論p. 376-427	行田
	7	産褥期にある対象への看護①：産褥期の観察視点と看護			教科書各論 p. 290-334	河内
	8	産褥期にある対象への看護②：母乳栄養と看護 産褥期にある対象への看護③：産褥期の異常と看護			人間の発達と健康各論Ⅰ：10, 11, 12回の理解 教科書各論 p. 455-474	菱谷
	9	新生児期にある対象への看護①：新生児の観察視点と看護			人間の発達と健康各論Ⅰ「新生児の経過と健康状態」の理解	橋爪
	10	新生児期にある対象への看護②：新生児に起こりやすい異常と看護 母胎期に起こりやすい精神疾患の看護			教科書各論 p. 428-455	河内
	11	看護過程の展開①： ウェルネス診断とは、 妊娠～産褥期及び新生児のアセスメント視点 演習のオリエンテーション			事後：資料の熟読	田村
	12	看護過程の展開②：事例の展開			事前：前回までの授業内容の理解、事後：各期の視点と展開方法の復習、演習内容	行田 河内
	13	看護過程の展開及び技術演習 技術演習 ①沐浴 ②レオポルト診断法と胎児心音聴取 ③子宮底長（妊婦・褥婦）・腹囲の測定			事前学習：各講義時の資料及び演習オリエンテーションの内容を熟読 事後学習：演習翌日にレポート提出	行田 河内 菱谷 橋爪 他
	14	〃				
15	看護過程の発表					
評 価 方 法	出席状況5%、授業及び演習中の態度5%、課題レポート10%、ミニテスト及び講義終了後のテスト80%による総合評価					
教 科 書	系統看護学講座専門Ⅱ 母性看護学概論 母性看護学① 医学書院 系統看護学講座専門Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学② 医学書院 ウェルネスからみた母性看護過程 第2版 医学書院					
参 考 書 参 考 文 献 等	ウェルネス看護診断に基づく母性看護過程 第2版 医歯学出版 看護データブック 第4版 医学書院、女性生涯発達看護学 真興交易 最新産科学（正常編・異常編）文光堂、 ウイメンズヘルスナーシング 女性のライフサイクルとナーシング ヌーベルヒロカワ ウイメンズヘルスナーシング 周産期ナーシング ヌーベルヒロカワ 仁志田博司著 産科スタッフのための新生児学 メディカ出版					
備 考	特になし					

科目区分	専門教育科目 専門基礎科目 人間の生涯発達と看護			聴講	否	
授業科目名	生涯発達看護学各論Ⅱ（乳幼児期・学童期）		科目履修	否	単位互換	否
科目番号	N12003	クラス番号	N1			
授業形式	演習	必修選択区分	必修			
開講時期	2年次 後期semester		単 位	2単位 60時間		
科目責任者	横山京子		そ の 他			
担当教員	横山京子 樋貝繁香 益子直紀 富永明子					
授業の概要	この授業は、「人間の発達と健康各論Ⅱ」において学習した乳幼児期・学童期にある人間の正常な健康状態及び正常から逸脱した健康状態とその回復過程に関する理解を前提とする。乳幼児期・学童期にある人間の潜在・顕在する健康上の問題を解決・回避し、健全な発達を支援するための方法を家族への支援も含め学習する。またこの過程を通し、効果的な看護を展開するために研究成果に基づく知識・技術を活用する意義を理解する。					
学 科 目 的 学 科 目 標	<p>目的：乳幼児期・学童期にある対象の健全な発達支援に向けて個別性に応じた看護を展開する方法を学習する。</p> <p>目標： 1. 子どもの入院生活と看護師の役割を理解する。 2. 子どもとその家族への看護実践の基本となる知識と技術を習得する。 3. 子どもの発達段階および健康状態に応じた看護について理解する。 4. 事例のアセスメントを通して、子どもを全人的に理解するための方法を理解する。 5. 事例のアセスメントに基づき、個別性に応じた看護過程を展開する方法を理解する。 6. 乳幼児期・学童期の子どもの看護に関する文献を閲読し、文献活用の意義を理解する。</p>					
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習 (学習課題)	担当	
	1	入院中の子どもと家族の看護	講義	*	横山	
	2	症状を緩和するための方法①主な症状の観察と看護	講義	*	横山	
	3	症状を緩和するための方法②主な症状の観察と看護	講義	*	横山	
	4	急性期の子どもと家族への看護	講義	*	横山	
	5	周手術期の子どもと家族への看護	講義	*	横山	
	6	慢性期の子どもと家族への看護：セルフケア行動の獲得への援助	講義	*	横山	
	7	障害のある子どもと家族への看護①	講義	*	横山	
	8	障害のある子どもと家族への看護②	講義	*	横山	
	9	低出生体重児と家族への看護	講義	*	樋貝	
	10	子ども虐待・心の問題を持つ子どもと家族への看護	講義	*	樋貝	
	11	染色体異常のある子どもと家族の看護	講義	*課題A提出	横山	
	12	治療・処置を受ける子どもの看護①発達段階に合わせた与薬法	講義	*	横山	
	13	治療・処置を受ける子どもの看護②固定・抑制	講義	*	樋貝	
	14	治療・処置を受ける子どもの看護③プレパレーション	演習	*	樋貝	
	15	治療・処置を受ける子どもの看護④プレパレーション	演習	*	樋貝	
	16	治療・処置を受ける子どもの看護⑤学習成果発表	演習	*ワークシート提出	樋貝	
	17	治療・処置を受ける子どもの看護⑥輸液・注射法	演習	*ワークシート提出	全員	
	18	治療・処置を受ける子どもの看護⑦固定法	演習	*ワークシート提出	全員	
	19	健康上の問題を持つ子どもの看護過程①オリエンテーション	講義	*	樋貝	
	20	健康上の問題を持つ子どもの看護過程②情報収集	演習	* 課題B提出	樋貝	
	21	健康上の問題を持つ子どもの看護過程③アセスメント	演習	*	樋貝/横山	
	22	健康上の問題を持つ子どもの看護過程④アセスメント	演習	・看護技術学各論Ⅴ において学習した 看護過程の復習 ・資料の自己学習 ・⑩終了後グループ ワークにより作成 した関連図・看護 計画提出	樋貝/横山	
	23	健康上の問題を持つ子どもの看護過程⑤アセスメント	演習		樋貝/横山	
	24	健康上の問題を持つ子どもの看護過程⑥関連図	演習		樋貝/横山	
	25	健康上の問題を持つ子どもの看護過程⑦関連図	演習		樋貝/横山	
	26	健康上の問題を持つ子どもの看護過程⑧関連図	演習		樋貝/横山	
	27	健康上の問題を持つ子どもの看護過程⑨看護計画立案	演習		樋貝/横山	
	28	健康上の問題を持つ子どもの看護過程⑩看護計画立案	演習		樋貝/横山	
	29	健康上の問題を持つ子どもの看護過程⑪学習成果発表	演習		樋貝/横山	
	30	施設から在宅移行における他職種・他機関との連携	講義		*	横山
評 価 方 法	課題20% 講義終了後の筆記試験80%					
教 科 書	系統看護学講座 専門Ⅱ 小児看護学①小児看護学概論 小児臨床看護学総論 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ 小児看護学②小児臨床看護各論 医学書院					
参 考 書 参 考 文 献 等	病と共に生きる子どもの看護：及川郁子監修 メヂカルフレンド社 発達に障害のある子どもの看護：及川郁子監修 メヂカルフレンド社 予後不良な子どもの看護：及川郁子監修 メヂカルフレンド社 中野綾美：小児看護学—小児看護技術 ナーシング・グラフィカ 29 メディカ出版 小野田千枝子監修：子どものフィジカル・アセスメント 金原出版 その他					
備 考	課題A：子どもへの看護に必要な基礎知識の整理 課題B：小児看護学に関する文献の探索と閲読 * :テキスト該当箇所の予習と復習					

科目区分	専門教育科目 専門科目		聴講	否		
授業科目名	生涯発達看護学各論Ⅲ (思春期・青年期)		単位互換	否		
科目番号	N12004	クラス番号	N1			
授業形式	演習		必修			
開講時期	3年次 前期セメスター		単位	2単位 60時間		
科目責任者	田村文子		その他			
担当教員	田村文子、関根 正、中野あずさ、垣上正裕、横山京子、中西陽子					
授業の概要	この授業は、「人間の発達と健康各論Ⅲ」において学習した思春期・青年期にある人間の正常な健康状態及び正常から逸脱した健康状態とその回復過程に関する理解を前提とする。思春期・青年期にある人間の潜在・顕在する健康上の問題に関し、特に生じやすい精神的側面の健康問題に焦点を当て、これを解決・回避し、健全な発達を支援するための方法を家族への支援も含め学習する。また、この過程を通し、より効果的な看護を展開するために研究成果に基づく知識・技術を活用する意義を理解する。					
学 科 目 的 標	目的：思春期・青年期にある対象の健全な発達支援に向けて、個別性に応じた看護を展開する方法を学習する。 目標 1. 思春期・青年期にある対象の潜在・顕在する健康問題をアセスメントする。 2. 健康問題の解決・回避に向けた個別的な看護実践の過程展開を理解する。 3. 健康問題を解決・回避するために必要な技術を対象に応じて実施する。 4. 思春期・青年期にある対象の特性に応じて看護実践を個別化する意義を認める。					
業 の 内 容 と 方 法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習(学習課題)	担当	
	1	思春期・青年期にある人とその家族に関わる看護師の役割	講義	統合失調症	田村	
	2	精神的健康問題をもつ人との関係形成をするための理論：人間関係論	講義		田村	
	3	精神的健康問題をもつ人との関係形勢をするための技術：コミュニケーション、プロセスレコード	講義		中野垣上	
	4	精神的健康問題をもつ人を支援するための看護理論：危機理論	講義		田村	
	5	精神的健康問題をもつ人を支援するための看護理論：セルフケア理論	講義		田村	
	6	精神的健康問題をもつ人への看護援助①：セルフケアレベルのアセスメント	講義		田村	
	7	精神的健康問題をもつ人への看護援助②：①観察と症状アセスメントの方法、②症状アセスメント(幻覚・妄想、興奮、拒絶)	講義		田村	
	8	精神的健康問題をもつ人への看護援助③：症状アセスメント(意欲低下、抑うつ、昏迷、自殺・自傷行為)	講義		気分障害	田村
	9	精神的健康問題をもつ人への看護援助④：症状アセスメント(不安、不眠、脅迫)	講義		田村	
	10	精神的健康問題をもつ人への看護援助⑤：症状アセスメント(躁状態・攻撃的状態)	講義		田村	
	11	精神的健康問題をもつ人への看護援助⑥：症状アセスメント(操作的行為、解離性障害)	講義	パーソナリティ障害	田村	
	12	精神的健康問題をもつ人への看護援助⑧：統合失調症の経過別看護(急性期、消耗期、回復期)	講義		田村	
	13	精神的健康問題をもつ人への看護援助⑨：家族支援(訪問看護)	講義		田村	
	14	治療・検査をうける人の看護①：各種テスト、精神療法(認知行動療法など)	講義		田村	
	15	治療・検査をうける人の看護②：身体療法(薬物療法、電気けいれん療法など)	講義		田村	
	16	治療・検査をうける人の看護③：社会療法(生活指導、生活技能訓練；SSTなど)	講義		田村	
	17	小児期からの健康問題をかかえる人への看護援助：キャリアオーバー	講義		横山	
	18	青年期の身体的な健康問題をかかえる人への看護援助⑩：肥満	講義		中西	
	19	精神的健康問題をもつ人への看護過程の展開[演習オリ]	講義		田村 中野	
	20～25	精神的健康問題をもつ人への看護過程の展開[演習] 20～21：①② 22～23：③④ 24～25：⑤⑥	演習	・セルフケア理論の復習 ・演習前課題レポート提出 ・演習終了後レポート提出	中野 田村 関根 垣上	
	26	精神看護の変遷とリハビリテーション	講義		田村	
	27	精神的健康問題をもつ人と家族を支える法的基盤①：精神保健福祉法	講義		田村	
	28	精神的健康問題をもつ人と家族を支える法的基盤②：障害者自立支援法とサービス提供体制	講義		田村	
	29	精神科におけるリスクマネジメント(転倒、身体拘束、自殺、無断離院など)	講義		田村	
	30	リエゾン精神看護師の役割	講義		田村	
	評価方法	出席状況(10%)、演習(看護過程演習)レポート(10%)、講義終了後のテスト(80%)により総合的に評価する。				
	教科書	武井麻子：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学2，医学書院，2013 田中美恵子編著：精神看護学 学生-患者のストーリーで綴る実習展開，医歯薬出版，最新版				
	参考文献等	リンダ J. カルペニート著，新道幸恵監訳：看護診断ハンドブック，第5版，医学書院，2006. ゲイル W. スチュアート他著，神郡 博監訳：精神看護学の新しい展開，医学書院 夏莉郁子：心病む母が遺してくれたもの，日本評論社，2013				
	備考	特になし				

科目区分	専門教育科目 専門科目 人間の生涯発達と看護			聴講	否
授業科目名	生涯発達看護学各論Ⅳ (成人期)		科目履修	否	単位互換
科目番号	N12005	クラス番号	N1		
授業形式	演習	必修選択区分	必修		
開講時期	3年次 前期 Semester	単 位	2単位 60時間		
科目責任者	中西陽子	そ の 他			
担当教員	中西陽子、廣瀬規代美、小林万里子、橋本晴美				
授業の概要	この授業は、「人間の発達と健康」各論Ⅳにおいて学習した成人期にある人間の正常な健康状態及び正常から逸脱した健康状態とその回復過程に関する理解を前提とする。この時期の人間の潜在・顕在する健康上の問題を解決・回避し、健全な発達を支援するための方法を学習する。また、この過程を通し効果的な看護を展開するために研究成果に基づく知識・技術を活用する意義を理解する。				
学 科 目 的 学 科 目 標	目的：成人期にある対象の健全な発達支援に向けて、個別性に応じた看護を展開する方法を学習する。 目標 1. 成人期にある対象の潜在・顕在する健康問題をアセスメントする。 2. 健康問題の解決・回避に向けた個別的な看護実践の方法を理解する。 3. 健康問題を解決・回避するために必要な看護を、成人の対象に応じて展開する方法を理解する。 4. 成人期にある対象の特性に応じて看護実践を個別化する意義を認める。				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1～2	学科目ガイダンス 成人期にある対象の健康問題を理解する必要性とその方法：看護診断と看護過程 1)	講義	必要に応じて課題を提示する。	中西 廣瀬
	3～5	呼吸機能障害のある対象への看護 1)～3) 1) 症状アセスメント 2) 検査・治療とその看護 3) 呼吸機能障害の代表的疾患とその看護	講義	必要に応じて課題を提示する。	小林
	6～9	消化・吸収障害のある対象への看護 1)～4) 1) 症状アセスメント 2) 検査・治療とその看護 3) 消化・吸収機能障害の代表的疾患とその看護 4) 手術を受ける成人期患者の看護	講義	必要に応じて課題を提示する。	橋本
	10～12	肝機能障害のある対象への看護 1)～3) 1) 症状アセスメント 2) 検査・治療とその看護 3) 肝機能障害の代表的疾患とその看護	講義	必要に応じて課題を提示する。	中西
	13～15	代謝機能障害のある対象への看護 1)～3) 1) 症状アセスメント 2) 検査・治療とその看護 3) 代謝機能障害の代表的疾患とその看護	講義	必要に応じて課題を提示する。	廣瀬
	16	代謝機能障害のある対象への看護 4) 演習①食品交換表を使用した献立作成 演習②自己血糖測定	演習	前回の授業資料を復習しておく。	廣瀬 中西
	17	生殖機能障害のある対象への看護 1) 1) 症状アセスメント、検査・治療、生殖機能障害の代表的疾患とその看護	講義	必要に応じて課題を提示する。	中西
	18	生殖機能障害のある対象への看護 2) 1) 症状アセスメント、検査・治療、生殖機能障害の代表的疾患とその看護	講義	必要に応じて課題を提示する。	小林
	19～20	循環器障害のある対象への看護 1)～2) 1) 症状アセスメント、検査・治療とその看護 2) 循環器機能障害の代表的疾患とその看護	講義	必要に応じて課題を提示する。	廣瀬
	21～22	膵機能障害のある対象への看護 1)～2) 1) 症状アセスメント、検査・治療とその看護 2) 膵機能障害の代表的疾患とその看護	講義	必要に応じて課題を提示する。	中西
	23	試験	試験		中西
		24	成人期にある対象の健康問題を理解する必要性とその方法：看護診断と看護過程 2)	講義	1～2回目の授業資料を復習しておく。
	25～31	健康問題を持つ成人期にある対象への看護過程の展開①～⑦ [成人期事例による看護過程の展開] ①演習オリエンテーション ②～⑦事例展開演習	演習	必要な資料収集の課題を毎回提示する。	中西 廣瀬 小林 橋本
評価方法	出席状況 (5%)、演習の参加状況・レポート (5%)、看護過程展開レポート (20%)、講義終了後のテスト (70%)				
教科書	リンダ J. カルペニート＝モイユ、新道幸恵監訳：看護診断ハンドブック第10版、医学書院				
参 考 書 参 考 文 献 等	阿部光樹他：系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学 [3] 循環器、医学書院 金田智他：系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学 [5] 消化器、医学書院 河井伸子他：系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学 [6] 内分泌・代謝、医学書院 浅野浩一郎他：系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学 [2] 呼吸器、医学書院 雄西智恵美他：成人看護学 (第2版) 周手術期看護論、ヌーヴェルヒロカワ 日本糖尿病学会編：糖尿病食事療法のための食品交換表 第6版、文光堂 浅野嘉延編集：看護のための臨床病態学、南山堂				
備 考	上記の教科書・参考書は生涯発達看護学各論Ⅵ (実習) でも活用します。				

科目区分	専門教育科目 専門科目 人間の生涯発達と看護			聴講	否	
授業科目名	生涯発達看護学各論V (老年期)		科目履修	否	単位互換	否
科目番号	N12006	クラス番号	N1			
授業形式	演習		必修選択区分	必修		
開講時期	3年次 前期 Semester		単位	2単位 60時間		
科目責任者	小川妙子		その他			
担当教員	小川妙子、狩野太郎、樋口友紀、福島昌子、中野あずさ					
授業の概要	この授業は、「人間の発達と健康各論V」において学習した老年期にある人間の正常な健康状態及び正常から逸脱した健康状態とその回復過程に関する理解を前提とする。老年期にある人間の潜在・顕在する健康上の問題を解決・回避し、健全な発達を支援するための方法を家族への支援を含め学習する。また、この過程を通し、効果的な看護を展開するため研究成果に基づく知識・技術を活用することの重要性を学習する。					
学科学科目標	目的：老年期にある対象の健全な発達支援に向け、個別性に応じた看護を展開する方法を学習する。 目標1. 老年期の人の健康問題のアセスメントに必要な知識・技術を理解する。 2. 老年期の人の健康問題の解決・緩和・回避にむけた支援方法を理解する。 3. 老年期の人の健康問題を解決・緩和・回避するために必要な看護技術を実施する。 4. 老年期の事例を通して特性に応じた個別的な看護過程の必要性を理解する。					
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習(学習課題)	担当	
	1	高齢者のフィジカルアセスメント技術	講義	① P74-121	小川	
	2	コミュニケーション障害のアセスメント - 難聴/視力/言語障害の観察と理解	講義	① P197-210	小川	
	3	コミュニケーション障害への支援 - 障害に応じた援助 (演習 A: ロールプレイ)	演習	事前課題: 学生のコミュニケーション体験	全教員	
	4	治療を必要とする高齢者の看護 1) - 検査、治療における援助(抑うつ)	講義	①119-121、185-196、263-269 ②P43-45、114-119	中野	
	5	治療を必要とする高齢者の看護 2) - 薬物療法の特徴と看護	講義	① P220-227、② P224-232	狩野	
	6	治療を必要とする高齢者の看護 3) - 検査、治療を受ける高齢者・家族への援助	講義	① P212-214	樋口	
	7	治療を必要とする高齢者の看護 4) - 感染のリスクと管理	講義	①P243-249、②P202、215-221	狩野	
	8	排泄障害のある高齢者のアセスメント - 失禁/尿閉/下痢/便秘	講義	① P159-170	小川	
	9	排泄障害のある高齢者の自立に向けた支援 - 排尿誘導、排泄用具の活用	講義	同上	小川	
	10	嚥下障害のある高齢者のアセスメント	講義	② P56-59	小川	
	11	嚥下障害のある高齢者への食事支援 (演習 B: 嚥下体験/とろみ食試食)	演習	事後課題: 嚥下体験用紙提出	全教員	
	12	嚥下障害のある高齢者の食事支援 - 食事介助方法と口腔ケア・胃ろう管理	講義	① P147-159	小川	
	13	老年期特有の症状を持つ高齢者への支援 *中間試験	講義	12回までの授業内容の確認	小川	
	14	認知症の高齢者と家族の理解1) - 認知症に関する基本知識	講義	VTR 視聴感想文	狩野	
	15	認知症の高齢者と家族の理解2) - 認知症によってもたらされる生活上の困難と支援	講義	①P277-296	狩野	
	16	認知症の高齢者と家族の理解3) - 認知症高齢者を支える家族の理解と支援	講義	同上	狩野	
	17	治療を必要とする高齢者の看護 5) - 手術を受ける高齢者のリスクと術後管理(治療方針の選択、せん妄、肺合併症)	講義	①P227-234、271-276	狩野	
	18	治療を必要とする高齢者の看護 6) - 手術を受ける高齢者の看護 大腿骨頸部骨折の概要と術後管理	講義	① P253-256、② P136-143	福島	
	19	治療を必要とする高齢者の看護 7) - 治療に伴う廃用症候群の予防と看護	講義	①P143-147	狩野	
	20	治療を必要とする高齢者の看護 8) - 高齢者のリハビリテーションと看護	講義	看護技術学のボディメカニクスを復習	狩野	
	21	歩行・移動困難にある高齢者の看護 (演習 C: 麻痺のある人の床上運動と移動)	演習	①P124-136	全教員	
	22	歩行・移動困難にある高齢者の看護 (演習 C: 麻痺のある人の床上運動と移動)	演習	同上	全教員	
	23	高齢者の社会資源活用と継続看護	講義	①P29-41	狩野	
	24	治療を必要とする高齢者の看護 9) 脳卒中により生じる機能障害と看護	講義	① P234-237	樋口	
	25	治療を受ける高齢者の看護過程(事例)展開と文献検索 (演習 D-1)	演習	25-30 回事後課題: 看護過程展開用紙、問題リストの個人課題提出	全教員	
	26	治療を受ける高齢者の看護過程(事例)展開と文献検索(演習 D-2)	演習		全教員	
	27	治療を受ける高齢者の看護過程(事例)展開と文献検索(演習 D-3)	演習		全教員	
	28	事例の看護過程発表・レポート作成 3(演習 D-4)	演習		全教員	
	29	事例の看護過程発表・レポート作成 (演習 D-5)	演習		全教員	
30	事例の看護過程発表・レポート提出 (演習 D-6)	演習	全教員			
評価方法	中間筆記試験 (45%)、終講筆記試験 (35%)、看護過程提出課題 (20%)					
教科書	① 系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学 医学書院 ② 系統看護学講座 専門 21 老年看護 病態・疾患 医学書院					
参考文献等	野口美和子編：最新 高齢者看護プラクティス 疾患・障害をもつ高齢者の看護、中央法規					
備考	特になし					

科目区分	専門教育科目 専門科目 人間の生涯発達と看護			聴講	否	
授業科目名	生涯発達看護学各論Ⅵ (実習)		科目履修	否	単位互換	否
科目番号	N12007	クラス番号	N1			
授業形式	実習	必修選択区分	必修			
開講時期	3年次後期～4年次前期	単 位	10単位 450時間			
科目責任者	田村文子	そ の 他				
担当教員	行田・河内・菱谷・橋爪・横山・樋貝・益子・富永・田村・関根・中野・垣上・中西・廣瀬・小林・橋本・小川・狩野・樋口・福島					
授業の概要	現実の実践環境に身を置きながら、母胎期から老年期までの発達段階の異なる様々な対象を受け持ち、その健康問題の解決・回避に向け看護過程を展開する。また、この実践を通して、対象の発達段階に対する理解を前提に個別性に応じた看護を展開する方法を学習する。さらに、チームの一員としての役割及び保健医療福祉との連携、協働の意義を学習する。					
学 科 目 的 学 科 目 標	<p>目的：生涯発達看護学概論・各論において学習した内容を総合し、様々な発達段階にある対象の顕在・潜在する健康問題を査定し、その解決・回避に向けて対象および環境と相互行為を展開する方法を学習する。</p> <p>目標：</p> <p>(1) 発達段階各期にある対象の発達課題と特徴、対象を取り巻く環境に基づいて対象を理解する。</p> <p>(2) 発達段階各期にある対象の顕在・潜在する健康問題を身体・心理・社会的側面からアセスメントする。</p> <p>(3) 発達段階各期にある対象の顕在・潜在する問題の解決・回避に向けた個別的な看護計画を立案・実施・評価する。</p> <p>(4) 発達段階各期にある対象への看護実践を通して看護の意義を見いだす。</p> <p>(5) 保健・医療・福祉における看護の役割・機能を理解する。</p> <p>(6) 発達段階各期の対象への看護実践を通して、看護の対象を生涯発達し続ける存在として捉え、その理解に基づき看護を実践することの意義を確認する。</p>					
授業の内容と方法	回	1クールの授業内容	授業方法	事前・事後学習 (学習課題)	担当 各期 教員	
	1	各期別オリエンテーション・学内演習	演習	<ul style="list-style-type: none"> ・実習ガイドライン必読 ・生涯発達看護学概論・各論Ⅰ～Ⅴの復習 ・各期の行動目標、フィールドの特徴に応じて、実習に必要な学習課題を提示する ・各期終了後レポート ・5クール終了後統合レポート 		
	2	各期別フィールドにおける実習 (1)	実習			
	3	各期別フィールドにおける実習 (2)	実習			
	4	各期別フィールドにおける実習 (3)	実習			
	5	各期別フィールドにおける実習 (4)	実習			
	6	各期別フィールドにおける実習 (5)	実習			
	7	各期別フィールドにおける実習 (6)	実習			
	8	各期別フィールドにおける実習 (7)	実習			
	9	各期別フィールドにおける実習 (8)	実習			
10	学内演習	演習				
	<p>【期間】平成26年9月29日(月)～平成27年1月30日(金)：2週間ずつ5クール</p> <p>【場所】前橋赤十字病院、伊勢崎市民病院、県立小児医療センター、群馬大学医学部附属病院、県立精神医療センター、医療法人赤城病院、地域活動支援センターピアーズ、指定就労継続支援B型事業所ラスター</p> <p>【教員】学生5名から6名の14グループを形成し、教員1名が担当する</p> <p>【内容・方法】主として各期にある対象者1名を受け持ち看護過程の展開を行う</p> <p>*原則として、各期3分の2以上の出席が必要</p>					
評価方法	各期実習における行動目標の達成状況90%、生涯発達看護学統合レポート10%					
教科書	指定なし					
参考書 参考文献等	生涯発達看護学概論、生涯発達看護学各論Ⅰ～Ⅴの配布資料 その他、別途提示する					
備 考	7月中に全体オリエンテーション予定、詳細は、実習要項参照					

科目区分	専門教育科目 専門科目 地域で生活する人々の健康と看護			聴講	可
授業科目名	地域健康看護学概論	科目履修	可	単位互換	否
科目番号	N13001	クラス番号	N1		
授業形式	講義	必修選択区分	必修		
開講時期	2年次 後期semester	単 位	2単位 30時間		
科目責任者	齋藤 基	そ の 他			
担当教員	齋藤 基、大澤真奈美				
授業の概要	<p>地域健康看護学とは、地域に生活する個人、家族及び集団の健康生活を目指し、これらの対象が地域社会に生活する場の環境に着目し、家庭環境、保健・医療・福祉施設環境、学習環境、労働環境、包括的地域環境を活動領域として捉える。それぞれの環境の特徴との関連から健康問題を把握し、看護活動を展開するとともに、地域社会のシステム化により組織的に問題解決を目指す看護のあり方を追求する学問である。この授業においては、地域健康看護学領域における概念の基盤となる地域看護活動の目的、対象、方法及び活動領域における特徴について学習する。</p>				
学 科 目 的 学 科 目 標	<p>目的：地域における様々な環境下において生活する人々に対し、その発達段階に応じた健康の保持・増進に向けて展開する看護の意義を学習する。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域における看護の基本理念を理解する。 2. 地域における看護と保健医療福祉行政との関連を理解する。 3. 地域における看護の対象及び活動領域を理解する。 4. 地域における看護活動の展開過程及び看護技術を理解する。 5. 地域における看護活動の根拠となる法律及び活動の背景となる歴史を理解する。 				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習(学習課題)	担当
	1	地域における看護の概念	講 義	毎回の授業終了時に自己学習課題を提示する。	齋藤
	2	日本における公衆衛生看護の変遷			
	3	公衆衛生の理念と地域における看護			
	4	地域における看護の対象			
	5	地域における看護の対象、地域における看護の活動領域			
	6	地域における看護の活動領域			
	7	地域における看護の展開過程①			
	8	地域における看護の展開過程②(活用可能な理論)			
	9	地域における看護の展開過程③(地域診断のための情報収集)	演 習	地域診断の課題レポートを提出する。	大澤
	10	地域における看護の展開過程④(地域診断のための情報収集)			
	11	地域における看護活動の方法(保健指導・活用可能な理論)	講 義	毎回の授業終了時に自己学習課題を提示する。	齋藤
	12	地域における看護活動の技術①(家庭訪問)			
	13	地域における看護活動の技術②(健康相談・健康診査)			
	14	地域における看護活動の技術③(健康教育)			
15	地域における看護に関わる法規				
評 価 方 法	授業終了後の試験(70%)、課題レポート(30%)				
教 科 書	1)奥山則子他編：標準保健師講座1 地域看護学概論, 医学書院 2)中村裕美子他編：標準保健師講座2 地域看護技術, 医学書院				
参 考 書 参 考 文 献 等	1)厚生統計協会編：国民衛生の動向, 厚生統計協会				
備 考	演習以外の授業については聴講が可能である。				

科目区分	専門教育科目 専門科目 地域で生活する人々の健康と看護			聴講	可
授業科目名	地域健康看護学各論 I (家庭環境)		科目履修	可	単位互換 否
科目番号	N13002	クラス番号	N1		
授業形式	講義	必修選択区分	必修		
開講時期	3年次 前期 Semester	単 位	2単位 30時間		
科目責任者	飯田苗恵	そ の 他			
担当教員	飯田苗恵、鈴木美雪、塩ノ谷朱美、坪井りえ、助教				
授業の概要	家庭環境において、様々な発達段階にある対象の顕在・潜在する健康問題を査定し、その解決や発生の回避に向けて看護活動を展開するための知識・技術・態度を学習する。地域における看護活動は、家庭に生活の場を置く家族を一つの単位として捉えたアプローチを行うことを基本とする。家族は、家族員の日常生活におけるヘルスケアケア機能を有しており、育児や介護、家族員の有病時のケアは生活の営みと共にある。この授業においては、地域で療養する人々とその家族を理解し、多職種と協働する中で、健康問題の解決や発生の回避(予防)とともに家族の発達課題を成し遂げられるように支援する看護活動を学習する。				
学 科 目 的 学 科 目 標	目的：家庭環境において、様々な発達段階にある対象の顕在、潜在する健康問題を査定し、その解決や発生の回避に向けて看護活動を展開するための知識・技術・態度を学習する。 目標：1. あらゆる健康レベルにある家族の日常生活、及び家族を一つの単位とした家庭内の健康保持増進のためのケア機能を理解する。 2. 家庭で生活する療養者・家族等を対象に展開する在宅ケアにおける看護活動の基本となる知識・技術・態度を理解する。				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習(学習課題)	担当
	1	家庭環境における看護の歩み	講義	授業時に課題を提示する。	飯田
	2	対象(療養者・家族・コミュニティ)の理解			
	3	家庭環境における看護過程(1)			
	4	家庭環境における看護の援助技術(1) コミュニケーション技術			
	5	家庭環境における看護の援助技術(2) 生活援助技術			
	6	家庭環境における看護の援助技術(3) 医療処置管理			
	7	家庭環境における看護の援助技術(4) リスクマネジメント			
	8	家庭環境における看護と多職種連携			
	9	家庭環境における看護過程(2)	演習		
	10	家庭環境における看護の展開(1) (障がい児・家族)	講義		
	11	家庭環境における看護の展開(2) (重篤な状態にある療養者・家族)			
	12	家庭環境における看護過程(3)	演習		鈴木 塩ノ谷 坪井 助教 飯田
	13	在宅看護と法制度	講義		
	14	在宅ケアと法制度			
15	療養者・家族の権利保障				
評価方法	出席状況 10%、課題レポート 30%、筆記試験 60%				
教科書	村松静子編著：在宅看護論第3版，メヂカルフレンド，2012				
参考書 参考文献等	必要に応じて適宜提示する。				
備考	特になし				

科目区分	専門教育科目 専門科目 地域で生活する人々の健康と看護			聴講	可	
授業科目名	地域健康看護学各論Ⅱ（保健・医療・福祉施設環境）	科目履修	可	単位互換	可	
科目番号	N13003	クラス番号	N1			
授業形式	講義	必修選択区分	必修			
開講時期	3年次 前期 Semester	単 位	2単位 30時間			
科目責任者	大澤真奈美	そ の 他				
担当教員	大澤真奈美、鈴木美雪、坪井りえ、塩ノ谷朱美					
授業の概要	疾患や障害などにより様々な健康問題を持つ対象は、保健・医療・福祉施設を利用し生活している。これらを生活の場として位置づけ、これらの場を利用する人々及びその家族に対して顕在・潜在する健康問題を査定し、その解決や発生の回避（予防）に向けて看護活動を展開するための知識・技術・態度を学習する。保健医療福祉施設環境を利用する対象は、家庭を生活の基盤としており、健康問題の発生・回避（予防）においては、保健医療福祉施設環境と家庭環境の影響が大きい。この授業においては、これら両側面から健康問題の特徴を理解し、問題を解決するための看護活動を学習する。					
学 科 目 的 学 科 目 標	<p>教育目的：様々な健康問題を持ち、保健・医療・福祉施設において生活または、これらの施設を利用する人々及びその家族に対する地域看護活動の実際を学習する。</p> <p>教育目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保健医療福祉施設環境において、疾患や障害を抱え生活する対象の特徴、および生活と健康との関連を理解する。 2. 対象の健康に関する課題と取り組みの現状（諸施策や保健活動）を理解する。 3. 生活の営みの中で対象の疾病・障害の回復・改善と健康を保持増進するための看護活動を理解する。 4. 保健医療福祉施設環境という視点から地域で生活する人々に対する看護活動のあり方を考える。 					
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習 (学習課題)	担当	
	1	難病対策と地域看護活動(1)－日本の難病対策（難病の定義、難病対策要綱、難病対策の変遷と動向）	講義	事後学習：第1～6回講義終了後に中間試験を行うので、授業内容についてプリントを中心に復習する。	鈴木	
	2	難病対策と地域看護活動(2)－重要疾患の特徴と予防（疾患の特徴、治療、予防と生活上の留意点－ALS、脊髄小脳変性症、パーキンソン病、スモン、ベーチェット、SLE、パーリジャー病、サルコイドーシス、潰瘍性大腸炎等）				
	3	難病対策と地域看護活動(3)－地域における看護活動の展開（在宅療養上のニーズ、患者家族への療養支援、地域資源利用の調整）、行政保健師と訪問看護の役割機能				
	4	感染症対策と地域看護活動(1)－日本の感染症対策（感染症の定義、I～V類感染症の発生状況、感染症法、感染症対策の変遷と動向）、肝炎ウイルス感染の予防と対策			大澤	
	5	感染症対策と地域看護活動(2)－結核対策と地域看護活動（結核の発生状況と発生機序、確定検査と治療（結核の医療基準））、地域看護活動の展開－DOTS、患者家族療養支援、行政保健師と訪問看護師の連携				
	6	感染症対策と地域看護活動(3)－食中毒（O-157等）集団感染（アウトブレイク）と地域看護活動、集団感染予防対策の変遷と動向、地域看護活動の展開（発生時の対応・平時予防活動）				
	7	中間試験・まとめ				
	8	精神保健福祉対策と地域看護活動(1)－日本の精神保健福祉対策（精神障害者の定義、精神保健福祉法、障害者統合支援法、精神保健福祉対策の変遷と動向）、保健所・市町村・精神保健福祉センターの役割機能				坪井
	9	精神保健福祉対策と地域看護活動(2)－精神障害者の社会復帰に向けた地域看護活動の展開（受療に繋げる援助、日常生活上の障害の特徴、サービス利用調整、地域資源開発）、行政保健師と訪問看護の連携（再発予防、日常生活援助）				
	10	精神保健福祉対策と地域看護活動(3)－心の健康づくり対策（心の健康づくり対策、アルコール関連問題、依存症者への支援、ひきこもり、高次脳機能障害）、自殺対策（自殺対策基本法、自殺対策大綱、地域における自殺対策の動向）				
	11	住民グループ、セルフヘルプグループへの育成支援				
	12	地区組織活動（民生委員、保健推進員活動等）、住民組織（NPO等）への育成支援				
	13	僻地における地域看護活動、僻地診療所の機能と連携				大澤
	14	地域づくり（ヘルスケアチーム、地域体制づくり、地域づくり）活動			塩ノ谷	
15	自然災害の発生対応及び平常時における健康危機管理と地域看護活動	坪井				
			鈴木			
評価方法	試験（前半40%、後半60%）による。出席状況（遅刻含む）、授業態度は減点対象とする。					
教科書	標準保健師講座2 地域看護技術, 医学書院 標準保健師講座3 対象別地域看護活動, 医学書院					
参考文献等	厚生統計協会編：「国民衛生の動向」最新版、「国民福祉の動向」最新版 最新公衆衛生看護学総論・各論Ⅰ・各論Ⅱ（日本看護協会出版会） 看護法令要覧 最新版					
備考	特になし					

科目区分	専門教育科目 専門科目 地域で生活する人々の健康と看護			聴講	可	
授業科目名	地域健康看護学各論Ⅲ (学習環境)		科目履修	可	単位互換 否	
科目番号	N13004	クラス番号	N1			
授業形式	講義	必修選択区分	必修			
開講時期	3年次 前期 Semester	単 位	2単位 30時間			
科目責任者	齋藤 基	そ の 他				
担当教員	齋藤 基、横山京子、大澤真奈美、鈴木美雪、塩ノ谷朱美、坪井りえ					
授業の概要	乳幼児期から思春期における発達段階にある個人・集団が学習活動を行う場である保育園・幼稚園、学校などの学習環境を対象の生活の場として位置づけ、これらの場に身を置く対象に対して顕在・潜在する健康問題を査定し、その解決や発生の回避（予防）に向けて看護活動を展開するための知識・技術・態度を学習する。学習活動を行う対象は、家庭を生活の基盤としており、学習活動に関わる健康問題の発生・回避（予防）においては、学習環境と家庭環境の影響が大きい。この授業においては、これら両側面から健康問題の特徴を理解し、問題を解決するための看護活動を学習する。					
学 科 目 的 学 科 目 標	<p>目的：生涯学習の視点から学習環境を捉え、そこで生活する対象の健康を保持・増進するための看護活動を学習する。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学習環境において生活する対象の特徴および生活と健康の関連を理解する。 2. 対象の健康に関する課題と取り組みの現状(諸施策や活動)を理解する。 3. 生活の営みの中で対象の健康を保持増進するための看護活動を理解する。 4. 学習環境という視点から地域で生活する人々に対する看護活動のあり方を考える。 					
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習 (学習課題)	担当	
	1	乳幼児・児童・生徒の健康を支える看護活動の理念及びシステム	講義	毎回の授業終了時に自己学習課題を提示する。	齋藤	
	2	乳幼児の健康と家庭生活				坪井
	3	乳幼児の健康な成長発達を促す看護活動①				
	4	乳幼児の健康な成長発達を促す看護活動②			大澤	
	5	乳幼児の健康な成長発達を促す看護活動③				
	6	乳幼児の健康な成長発達を促す看護活動④				
	7	児童・生徒の健康を支える看護活動①			齋藤	
	8	児童・生徒の健康を支える看護活動②				
	9	児童・生徒の健康を支える看護活動① (学校保健)				
	10	児童・生徒の健康を支える看護活動② (学校保健)			坪井	
	11	児童・生徒の健康を支える看護活動③ (学校保健)				
	12	発達に障害のある乳幼児・児童への看護活動			鈴木	
	13	児童・生徒の健康問題の特徴と看護活動				
	14	健康問題を持つ児童・生徒の学習環境適応における問題			横山	
15	健康問題を持つ児童・生徒の学習環境適応に向けた看護活動の実際					
評価方法	授業終了後の試験 (70%)、演習の出席及び課題レポート (30%)					
教科書	松田正巳他著：標準保健師講座3 対象別地域看護活動, 医学書院					
参考書 参考文献等	平山朝子編：公衆衛生看護学大系③母子保健指導論, 日本看護協会出版会 厚生統計協会編：国民衛生の動向, 厚生統計協会など授業で適宜提示する。					
備考	演習以外の授業については聴講が可能である。					

科目区分	専門教育科目 専門科目 地域で生活する人々の健康と看護			聴講	可
授業科目名	地域健康看護学各論Ⅳ (労働環境)		科目履修	可	単位互換
科目番号	N13005	クラス番号	N1		
授業形式	講義	必修選択区分	必修		
開講時期	3年次 前期 Semester	単 位	2単位 30時間		
科目責任者	大澤真奈美	そ の 他			
担当教員	大澤真奈美、鈴木美雪、塩ノ谷朱美、坪井りえ、助教				
授業の概要	<p>青年期から老年期に及ぶ発達段階にある個人、集団が労働に従事する様々な環境を対象の生活の場として位置付け、これらの労働環境に身を置く対象の顕在・潜在する健康問題を査定し、その解決や発生の回避（予防）に向けて看護活動を展開するための知識・技術・態度を学習する。労働とは、人々が環境との相互行為により、生活手段や生産手段を作り出し、経済的な基盤を確立するとともに社会生活における事故の存在意義を確立するために行う重要な活動であり、地域において人々の労働生活を支援する看護職の役割は大きい。また、労働に従事する人々の多くは、家庭を生活の基盤としておくものであり、労働生活にかかわる健康問題の発生・回避（予防）においては、労働環境および家庭環境の影響が大きい。この授業においては、これらの側面から健康問題の特徴を理解し、地域において看護活動を展開する方法を学習する。</p>				
学 科 目 的 学 科 目 標	<p>目的：様々な環境下において就労する対象の健康の保持増進に向けて、個人ならびに集団と相互行為を展開するための知識・技術・態度を学習する。</p> <p>目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 労働環境において生活する対象の特徴および生活と健康の関連を理解する。 2. 対象の健康に関する課題と取り組みの現状（諸施策や活動）を理解する。 3. 生活の営みの中で対象の健康を保持増進するための看護活動を理解する。 4. 労働環境という視点から地域で生活する人々の対する看護活動のあり方を考える。 				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1	成人保健対策と地域看護活動（1）：生活習慣病予防対策と特定健診・特定保健指導（高齢者の医療の確保に関する法律、生活習慣病対策の変遷と動向、ハイリスクアプローチ、健診受託事業者）	講義		塩ノ谷
	2	成人保健対策と地域看護活動（2）：健康づくり対策と地域看護活動（健康増進法、健康日本21計画策定、健康づくり対策の変遷と動向、ポピュレーションアプローチ）			
	3	成人保健対策と地域看護活動（3）：禁煙及びがん対策と保健指導			
	4	労働衛生対策と産業看護活動（1）：日本の労働衛生対策①（労働基準法、労働安全衛生法、労働衛生対策の変遷）			
	5	労働衛生対策と産業看護活動（2）：日本の労働衛生対策②（労働衛生の管理体制、産業保健活動、労働衛生マネジメントシステム）			
	6	労働衛生対策と産業看護活動（3）：職業性疾病と労働衛生対策（健康実態及び健康課題、職業性疾病の特徴）、各種労働衛生対策			
	7	労働衛生対策と産業看護活動（4）：THP、メンタルヘルス対策（産業看護活動の展開、職場復帰支援）、過重労働対策			
	8	労働衛生対策と産業看護活動（5）：中小企業へのサポート（中小企業における健康管理の実態、サポート体制）、地域・職域連携			
	9	中間試験 演習①オリ－事業場が行なう労働衛生対策と看護職の役割：職業性疾病予防対策、快適職場づくり対策等	演習		大澤・鈴木・塩ノ谷・坪井・助教
	10～12	演習②③④－グループワーク・発表			
	13	高齢者対策と地域看護活動(1)：介護保険法（地域支援事業）、高齢化の現状と課題、介護予防の必要性、介護予防事業活動の変遷と動向			
	14	高齢者対策と地域看護活動(2)：介護予防活動の展開（介護予防事業、認知症高齢者、他機関との連携）	講義		大澤
	15	高齢者対策と地域看護活動(3)：地域包括支援センターにおける看護活動、行政・在介・地域包括の役割機能、介護保険制度の質管理			
	評価方法	筆記試験（前半50%、後半30%）および演習課題（20%）による。出席状況、授業態度は減点対象。			
教科書	標準保健師講座2 地域看護技術 及び 標準保健師講座3 対象別地域看護活動, 医学書院				
参考書 参考文献等	厚生統計協会編：「国民衛生の動向」最新版 最新公衆衛生看護学各論Ⅰ・各論Ⅱ（日本看護協会出版会）、看護法令要覧 最新版				
備考	特になし				

科目区分	専門教育科目 専門科目 地域で生活する人々の健康と看護			聴講	否
授業科目名	地域健康看護学各論V (実習)		科目履修	否	単位互換 否
科目番号	N13006	クラス番号	N1		
授業形式	実習		必修選択区分	必修	
開講時期	3～4年次 後期～前期セメスター		単 位	4単位 180時間	
科目責任者	齋藤 基		そ の 他		
担当教員	地域健康看護学全教員				
授業の概要	地域健康看護学概論・各論で学習した内容を総合し、地域で生活する個人並びに集団の顕在・潜在する健康問題を査定し、その解決回避に向けて地域看護活動を展開する方法を学習する。この授業においては、家庭環境、保健・医療・福祉施設環境、労働環境、学習環境において生活する対象に看護職者が提供する実践の目的と特徴を理解するために、それぞれの環境をフィールドとして個人並びに集団と相互行為を展開する。また、これら環境の特徴と健康との関連の理解に基づき、地域全体の健康状態を査定し、個人、集団を対象に看護活動を計画、実施する方法を理解する。				
学 科 目 的 学 科 目 標	<p>目的：地域健康看護学概論・各論で学習した内容を総合し、地域で生活する個人並びに集団の顕在・潜在する健康問題を査定し、その解決回避に向けて地域看護活動を展開する方法を学習する。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域で生活する人々と生活の場の特徴に応じた相互行為を展開し、生活を営む環境と健康の関係性を理解する。 2. 地域で生活する個人および集団の健康をアセスメントし、看護計画を立案する。 3. 地域で生活する個人および集団に対応した看護実践の特徴を理解する。 4. 地域で生活する個人および集団の看護において、保健・医療・福祉との連携・調整の重要性を確認する。 5. 地域で生活する個人および集団の健康を支える地域ケアシステムにおける看護の役割・機能の意義を見出す。 				
	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1	オリエンテーション・学内演習	演習	<ul style="list-style-type: none"> ・看護学実習ガイドラインを熟読する。 ・地域健康看護学概論、各論Ⅰ～Ⅳを復習する。 ・実習フィールドごとに課題を提示する。 	地域健康看護学全教員
	2～5	訪問看護ステーション実習(家庭環境)	実習		
	6	学校実習(学習環境)	実習		
	7～9	重症心身障害児施設実習 (保健・医療・福祉施設環境)	実習		
	10	学内演習・オリエンテーション	演習		
	11	学内演習	演習		
	12	事業所実習(労働環境)	実習		
	13～15	保健福祉事務所・中核市保健所実習 (包括的地域環境)	実習		
	16～19	市町村保健センター実習 (包括的地域環境)	実習		
	20	学内演習・統合演習	演習		
	<p>【期間】平成25年10月～平成26年6月 1グループ4週間</p> <p>【場所】訪問看護ステーション、学校、重症心身障害児施設、事業所、保健福祉事務所、中核市保健所、市町村保健センター</p> <p>【グループ編成】1グループ当たり学生5～6人で14グループを編成する。</p> <p>【方法】オリエンテーション、学内演習、臨地実習により学習活動を展開する。 ※原則として実習日数の3分2以上の出席が必要である。</p>				
評価方法	各実習フィールドにおける行動目標の達成状況(90%)、統合演習レポート(10%)				
教科書	指定なし。				
参考書 参考文献等	地域健康看護学概論、地域健康看護学各論Ⅰ～Ⅳで使用した教科書、配付資料 その他、担当教員が提示する。				
備考	特になし。				

科目区分	専門教育科目 専門科目 看護専門職の役割と機能			聴講	可
授業科目名	機能看護学概論		科目履修	可	単位互換 否
科目番号	N14001	クラス番号	N1		
授業形式	講義	必修選択区分	必修		
開講時期	2年次 後期 Semester	単位	1単位 15時間		
科目責任者	吉富美佐江	その他			
担当教員	吉富美佐江、巴山玉蓮、岩波浩美、小野寺洋子、着任予定者				
授業の概要	機能看護学は、看護学生を含む看護職者の成長・発達支援とその役割と機能の発揮に焦点をあて、究極的には、対象の健康状態の維持・向上に貢献することを目指す学問である。この授業においては、機能看護学の諸側面である看護教育、看護管理、看護政策に関してその概要を学習する。また、これらの充実が看護職者個人やシステムとしての看護の質に影響し、対象の健康状態の改善に貢献することを学習する。さらに、この過程を通し看護職者が制度的側面に関わりその機能と役割を発揮する意義を理解する。				
学 科 目 的 学 科 目 標	<p>目的：国内外の様々な場において看護職者が果たしている役割と看護の機能を学習することを通して、機能看護学の目的と意義を理解する。</p> <p>目標：1. 社会における看護の機能と看護職者の役割を理解する。 2. 看護の機能を発揮するために必要な要素を理解する。 3. 看護職者がシステムを開発・維持・変革する意義を認める。 4. 看護職者の発達を支援する意義を認める。 5. 機能看護学を学ぶ意義を認める。</p>				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1	I. 機能看護学とは －本学のカリキュラムにおける機能看護学の位置づけ －機能看護学の定義と目的 －看護教育学領域と看護政策管理学領域	講義	「機能」という用語を2つ以上の辞書を用いて調べる	吉富 巴山
	2	II. 社会における看護の機能 －機能とは何か －看護の機能とは何か －社会状況の変化に対応する看護の機能		『看護者の基本的責務』の看護者の倫理綱領を精読する	吉富
	3	III. 看護の機能の発揮に必要な看護職者の役割 －役割とは何か －看護の機能を発揮に必要な看護職者の多様な役割		『看護のための人間発達学第4版』第7章を精読する	岩波
	4	IV. 看護の機能の発揮に向けた看護職者の発達の支援 －看護学生を含む看護職者の発達の過程 －職業的社会的 －看護学生を含む看護職者の発達に必要な要素		「システム」という用語を2つ以上の辞書を用いて調べる	吉富 小野寺
	5	V. 看護の機能を発揮する基盤となるシステムの開発・維持・変革(1) －システムとは何か －看護を提供する基盤となるシステム		「イノベーション」という用語を調べ、具体例を用いて説明する	巴山
	6	V. 看護の機能を発揮する基盤となるシステムの開発・維持・変革(2) －システムの開発・維持・変革 －看護の機能を発揮する基盤となるシステムの開発・維持・変革		第1回から第6回の授業内容を復習する	巴山
	7	まとめ －看護の機能の発揮に向けた看護学生を含む看護職者の発達に必要な要素 －看護の機能の発揮に必要なシステムの開発・維持・変革を担う看護職者の要素	演習	討議内容を振り返り、自己の考えをまとめる	吉富
	【レポート課題】『機能看護学概論を通して学んだこと』 7回の授業を通して得た知識に基づき、学生個々が「機能看護学概論を通して学んだこと」を述べる				
評価方法	レポート(100%)				
教科書	舟島なをみ：看護のための人間発達学 第4版，医学書院，2011. 日本看護協会編：新版看護者の基本的責務－定義・概念／基本法／倫理，日本看護協会出版会，2012. ヴァージニア・ヘンダーソン：看護の基本となるもの，日本看護協会出版会，2012.				
参考書 参考文献等	必要に応じて適宜提示する				
備考	特になし				

科目区分	専門教育科目 専門科目 看護専門職の役割と機能			聴講	可
授業科目名	機能看護学各論Ⅰ（看護教育）	科目履修	可	単位互換	否
科目番号	N14002	クラス番号	N1		
授業形式	講義	必修選択区分	必修		
開講時期	3年次 前期 Semester	単 位	1単位 15時間		
科目責任者	吉富美佐江	そ の 他			
担当教員	吉富美佐江				
授業の概要	看護教育学は、看護学各領域の教育に共通して普遍的に存在する要素を対象として研究を展開する学問であり、この研究成果を活用することにより、看護学生を含むすべての看護職者個々の発達を支援する。また、それを通し、質の高い看護を提供することを目指す。この授業においては、機能看護学の重要な一領域である看護教育学に焦点を当て、看護教育制度や看護学実習の特徴および看護継続教育における学習ニーズや教育プログラムの特徴に関して学習する。さらに、看護教育学研究の意義や研究成果活用の実際を理解する。				
学 科 目 的 学 科 目 標	<p>目的：看護職者および看護学生の発達支援に向けて看護職者が教育的機能を発揮する意義と方法を学習する。</p> <p>目標：1. 看護教育学の特徴を理解する。 2. 看護師養成教育、看護学教育の現状と課題を理解する。 3. 看護専門職の教育における主体的学習の意義を確認する。 4. 看護専門職が教育的機能を発揮する必要性を認める。 5. 看護教育学研究の意義と研究成果活用の実際を理解する。</p>				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1	I. 看護教育学の特徴 看護教育学の定義と理念 看護教育学と看護学教育 看護教育学を学習する意義 主体的・自発的学習	講義	学校教育法第83条、108条、124条、134条を精読する	吉富
	2	II. 看護師養成教育の現状と課題（1） 看護師養成教育に関わる法的基盤 看護師養成教育の制度上の特徴 社会情勢と看護教育制度		本学の教育理念と目的、看護学部の教育目的と目標を学生便覧から抜粋する	吉富
	3	II. 看護師養成教育の現状と課題（2） 看護基礎教育課程のカリキュラム 大学と専門学校のカリキュラムの相違 大学における看護師養成教育の特徴		「看護者の倫理綱領」第8条および解説を精読する	吉富
	4	III. 看護専門職と主体的学習（1） 看護師養成教育の歴史的変遷		「教育評価」の意義を教科書から抜粋する	吉富
	5	III. 看護専門職と主体的学習（2） 教育評価に関する基本的知識 看護専門職に必要な自律的態度と自己評価		「看護基礎教育」「看護卒後教育」「看護継続教育」の定義を教科書から抜粋する	吉富
	6	IV. 看護専門職が教育的機能を発揮する意義と方法 教育対象と教育機関による看護学教育の分類 看護職者が発揮する教育的機能 看護職者が教育的機能を発揮する意義		看護学実習中にうまくいかなかった場面を記述する	吉富
	7	V. 看護教育学研究の意義と研究成果活用の実際 看護教育学研究の対象と目的 看護教育学研究の実例と活用方法		第1回から第7回の授業内容を復習する	吉富
	8	筆記試験			
評価方法	筆記試験（100%）				
教科書	杉森みど里・舟島なをみ：看護教育学第5版増補版，医学書院，2014.				
参考書 参考文献等	必要に応じて適宜提示する				
備考	特になし				

科目区分	専門教育科目 専門科目 看護専門職の役割と機能			聴講	可
授業科目名	機能看護学各論Ⅱ（看護管理）		科目履修	可	単位互換
科目番号	N14003	クラス番号	N1		
授業形式	講義	必修選択区分	必修		
開講時期	3年次 前期 Semester		単 位	1単位 15時間	
科目責任者	巴山玉蓮	そ の 他			
担当教員	巴山玉蓮、木村美香、看護政策管理学着任予定者				
授業の概要	質の高い看護を提供するために人的・物的資源および環境を管理・調整する意義と方法を学習する。看護職者の機能と役割の拡大およびその質の向上をキャリア発達という視点から学習する。また、わが国と諸外国の看護システムの比較検討や CNS 制度の導入・普及に関する諸問題の検討をとおして看護の役割の拡大と看護管理システム構築における人的・物的・経済的資源活用の実際に関して学ぶ。看護職者の満足度調査や業務改善などの研究成果に触れ、看護管理学の研究領域・方法・対象を学習する。				
学 科 目 的 学 科 目 標	<p>目的：質の高い看護を提供するために人的・物的・財的資源と情報および環境を管理・調整する意義と方法を学習する。</p> <p>目標：1. 保健医療システムが有効に機能するために組織の成立、存続、発展が重要であることを理解する。</p> <p>2. 組織の成立、存続、発展にむけた管理（management）の重要性を理解する。</p> <p>3. 看護職者として組織の成立、存続、発展に主体的に参画することの意義を認める。</p>				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習 （学習課題）	担当
	1	保健医療システムの目的と機能 －保健医療システムの変遷	講義	事前：講義終了時に次回の学習課題を提示する。 事後：配布資料を基に各回の講義内容を復習する。	巴山 木村
	2	保健医療システムが有効に機能するための組織 －組織の定義 －組織の成立要件 －組織の構造と機能			
	3	組織の成立、存続、発展のための管理（1） －管理の定義 －管理の要素			
	4	組織の成立、存続、発展のための管理（2） －管理の過程			
	5	組織の成立、存続、発展のための管理（3） －人的・物的・経済的資源および予算の管理			
	6	組織における医療安全と感染管理 －基本的な考え方			
	7	医療におけるサービス			
8	筆記試験				
評 価 方 法	筆記試験（100%） ※試験日時は別途指定する。				
教 科 書	特になし				
参 考 書 参 考 文 献 等	原玲子：学習課題とクイズで学ぶ看護マネジメント入門，日本看護協会出版会，2011. 中西睦子編：看護サービス管理 第3版 医学書院，2007.				
備 考	特になし				

※本科目は平成25年度までです。

看護学部

科目区分	専門教育科目 専門科目 看護専門職の役割と機能			聴講	否
授業科目名	機能看護学各論Ⅲ (看護政策)	科目履修	否	単位互換	否
科目番号	N14004	クラス番号	N1		
授業形式	講義	必修選択区分	選択		
開講時期	3年次 前期 Semester	単 位	1単位 15時間		
科目責任者	巴山玉蓮	そ の 他			
担当教員	機能看護学 (看護政策管理) 全教員				
授業の概要	保健医療制度およびこれらに関連する諸法規に関する理解を前提とし、政策的側面から看護の質を保証するための知識・技術に関して学習する。具体的には、市町村・都道府県等地方自治体などの行政単位における対象の健康保持・増進に向けた看護システム構築や政策的展開に関して学習する。				
学 科 目 的 学 科 目 標	<p>目的：その時代その社会に適応した看護システムを創造性豊かに開発・確立するための方法と、その過程において看護職が果たす役割の重要性を学習する。</p> <p>目標：1. 政策及び政策過程について理解する。 2. 看護に関する政策の歴史と変遷について理解する。 3. 看護職者が政策過程に参画する意義を見出す。</p>				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1	看護政策を学習する意義	講義	事前：講義終了時に次回の学習課題を提示する 事後：配布資料を基に各回の講義内容を復習する	巴山
	2	政策過程に関する基礎知識 －政策 －政策過程			巴山
	3	看護に関する政策の変遷 －診療報酬の改定と看護への影響			加藤
	4	主要な看護に関する政策 －政策の成立背景と今日の課題			巴山 加藤 北爪
	5	政策過程へ参画するための課題：演習 (1)	演習		巴山 加藤 北爪
	6	政策過程へ参画するための課題：演習 (2)			
	7	政策過程へ参画するための課題：演習 (3)			
評価方法	課題レポート (100%)				
教科書	指定なし				
参考書 参考文献等	1) 見藤隆子他：看護職者のための政策過程入門，日本看護協会出版会，2007。 2) 池上直己：日本の医療 統制とバランス感覚，J.C. キャンベル，中公新書，2003。				
備考	特になし				

科目区分	専門教育科目 専門科目 看護専門職の役割と機能			聴講	否
授業科目名	機能看護学各論Ⅳ（専門職的機能の発達支援）		科目履修	否	単位互換
科目番号	N14005	クラス番号	N1		
授業形式	演習	必修選択区分	選択		
開講時期	3年次 前期 Semester	単 位	1単位 30時間		
科目責任者	岩波浩美	そ の 他			
担当教員	岩波浩美、小野寺洋子、木村美香				
授業の概要	看護職者は専門職であり、効果的な実践を展開するために必要な新たな知識・技術・態度を常に自律的に学習し続ける必要がある。また、そのためには、自己教育力を高めることが重要である。この授業においては、小グループによる発見学習演習を通して、機能看護学領域における様々なテーマの焦点化及び問題解決を試み、自己教育力の向上を図る方法を学習する。また、専門職的自律性と自己教育力の関連、看護職が自己教育力を高める重要性に関して理解する。				
学 科 目 的 学 科 目 標	目的：看護専門職者として自己評価活動を展開する意義を学習し、その基盤となる自己教育力の重要性を学習する。 目標：1. 機能看護学に関わる興味・関心を明確にし、問題解決過程を実施する。 2. テーマの焦点化・問題解決過程を通し、看護職が自己教育力を培う重要性を理解する。				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1	授業の目的・目標及び学習方法の理解 －機能看護学各論Ⅳを学ぶ意義 －授業の目的・目標 －機能看護学に関わるテーマの実例 －学習方法	講義	機能看護学に関わる興味・関心、解決したい問題を明確化する	岩波
	2	問題解決に向けた文献検索の方法			岩波
	3	学習グループの形成 －解決したい問題、興味・関心の共通性によるグループ形成 －テーマの焦点化	演習	授業終了毎、レポートに学習成果と次回の課題を記載し、提出する	岩波 他 ※受講者数に応じて決定
	4	グループディスカッション 用語の確認 －自己評価、自己教育力、問題解決過程			
	5	問題解決過程の体験 －テーマの焦点化			
	6	－テーマの決定 －テーマに基づく文献検索			
	7	－文献入手 －文献精読による内容の理解			
	8	－文献検討による問題解決状況の確認 －問題解決過程の自己評価 中間報告の準備			
	9	中間報告 －経過報告と報告内容に対する質疑応答			
	10	学習成果の要約と発表準備			
	11	・問題解決過程の確認と再評価			
	12	・問題解決状況の確認と自己評価			
	13	・発表準備に向けた資料等の作成			
	14				
15	成果発表と質疑応答 －成果発表と発表内容に対する質疑応答	最終レポート			
評価方法	演習の学習活動と最終レポートにより行動目標の達成状況を評価する(100%)。				
教科書	指定なし				
参考書 参考文献等	講義中に必要に応じて適宜提示する。				
備考	特になし				

科目区分	専門教育科目 専門科目 看護専門職の役割と機能			聴講	否
授業科目名	機能看護学各論Ⅴ (実習)	科目履修	否	単位互換	否
科目番号	N14006	クラス番号	N1		
授業形式	実習	必修選択区分	選択必修		
開講時期	4年次 前期 semester	単 位	2単位 90時間		
科目責任者	岩波浩美	そ の 他			
担当教員	巴山玉蓮、吉富美佐江、岩波浩美、小野寺洋子、木村美香、看護政策管理学着任予定者				
授業の概要	機能看護学概論・各論で学習した内容を統合し、看護職者の機能を維持・拡大するシステムに対して総合的に学習する。行政・臨床・地域・企業・大学などのフィールドにおいて、その実践の特徴を学習し、看護職者の役割と機能を発展させる方法の必要性を理解する。				
学 科 目 的 学 科 目 標	<p>目的：機能看護学概論・各論で学習した内容を統合し、看護職者の機能を維持・拡大するシステムに対して総合的に学習する。</p> <p>目標<コースA：看護政策管理グループ></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保健医療システムの開発・維持・変革における看護職者の役割を理解する。 2. 保健医療システムの開発・維持・変革における看護職者の役割遂行・拡大の重要性を理解する。 3. 目標1, 2の達成に向けてグループという組織の一員として、学習活動を展開する。 4. 看護の機能の発揮に向けて役割を遂行し、システムを開発・維持・変革できる看護職者になるための自己の課題を見出す。 <p>目標<コースB：看護教育グループ></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護職者が実践する教育的活動を参加観察(参加型)する。 2. 看護職者が教育的機能を発揮する意義を理解する。 3. 教育的機能を発揮できる看護職者になるための自己の課題を見出す。 				
授業の内容と方法	回	コースA	コースB	授業形態	
	1	オリエンテーション・学内演習(1)	オリエンテーション・学内演習(1)	講義・演習	
	2	フィールドにおける実習(1)	フィールドにおける実習(1)	実習	
	3	フィールドにおける実習(2)	フィールドにおける実習(2)	実習	
	4	フィールドにおける実習(3)	フィールドにおける実習(3)	実習	
	5	学内演習(2) 中間評価	学内演習(2) 中間評価	演習	
	6	フィールドにおける実習(4)	フィールドにおける実習(4)	実習	
	7	フィールドにおける実習(5)	フィールドにおける実習(5)	実習	
	8	学内演習(3) グループワーク	学内演習(3) グループワーク	演習	
	9	成果発表 質疑応答	成果発表 質疑応答	演習	
10	最終評価 レポート提出	最終評価 レポート提出	演習		
	<p>【期間】 2週間 予定：平成26年6月30日(月)から7月11日(金)</p> <p>【場所】 コースA：病院, 日本看護協会, 群馬県庁など コースB：病院, 大学, 群馬県看護協会など</p> <p>【時間】 実習場所に応じて設定</p> <p>【教員】 グループの数に応じて担当教員を決定</p> <p>【内容・方法】</p> <p>コースA：看護政策管理の実際に参加観察し、グループメンバーと協力しながら、システムを開発・維持・変革できる看護職者になるための自己の課題を見出す。</p> <p>コースB：看護職者の行動に参加観察(参加型)し、教育的機能を発揮できる看護職者となるための課題を見出す。</p> <p>【事前・事後学習】</p> <p>各コースの目標やフィールドの特徴に応じて、実習に必要な学習課題を提示する。</p>				
評価方法	演習、実習の行動目標達成度(70%)、レポート(30%)				
教科書	指定なし				
参考書 参考文献等	必要に応じて適宜提示する。				
備考	特になし				

科目区分	専門教育科目 専門科目 看護専門職の役割と機能			聴講	可
授業科目名	看護関連法規論	科目履修	可	単位互換	否
科目番号	N14007	クラス番号	N1		
授業形式	講義	必修選択区分	必修		
開講時期	3年次 前期 Semester	単 位	1単位 15時間		
科目責任者	巴山玉蓮	そ の 他			
担当教員	巴山玉蓮、木村美香、看護政策管理学着任予定者				
授業の概要	この授業においては、看護職者の役割と機能に関わる様々な法の種類・特徴に関する知識を学習する。また、これら諸法規が実践を取り巻く環境にどのように影響し、看護職者の役割と機能を規制・保護するのかを学習し、法的側面から対象の健康問題の解決・回避を目指す重要性を理解する。さらに、これら一連の過程を通して、国民の健康に関わる保健・医療専門職として国家三権としての司法、行政、立法に関しても独自の見解を明らかにし、影響力を持つ必要性についても学習する。				
学 科 目 的 学 科 目 標	目的：看護職者の実践に関連する法規を学習し、職業上の法的責任を学習する。 目標：1. 社会システムを規定する法について理解する。 2. 保健医療システムに関連する法律について理解する。 3. 看護専門職者に必要な法律の基礎知識を理解する。 4. 看護職者としての責務を法的にとらえる重要性を理解する。				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1	社会システムと法 －社会システム －法に関する基本的な考え方	講義	事前：講義終了時に次回の学習課題を提示する。 事後：配布資料を基に各回の講義内容を復習する。	巴山 木村
	2	保健医療システムと法律 －保健医療システム －人間の権利やその擁護を保障する法的背景 －保健医療システムに関連する法律			
	3	看護職に直接関係する法律（1） －保健師助産師看護師法			
	4	看護職に直接関係する法律（2） －看護師等の人材確保促進に関する法律			
	5	看護職を取り巻く法律（1） －医療提供者の身分、資格を規定する法律 －看護職者が活動する場に関する法律			
	6	看護職を取り巻く法律（2） －看護の対象を保護する法律 看護業務の拡大に関連する法律（1） －新しい法律			
	7	看護業務の拡大に関連する法律（2） －看護業務の拡大に伴う法的責任			
	8	筆記試験			
評価方法	筆記試験（100％）※試験日時は別途指定する。				
教科書	門脇豊子他：看護法令要覧 平成26年度版，日本看護協会出版会，2014				
参考書 参考文献等	講義中に必要に応じて適宜提示する。				
備考	特になし				

科目区分	専門教育科目 専門科目 看護専門職の役割と機能			聴講	可
授業科目名	看護専門職の役割と機能 I	科目履修	可	単位互換	可
科目番号	N14008	クラス番号	N1		
授業形式	講義	必修選択区分	必修		
開講時期	3年次 前期 Semester	単 位	1単位 15時間		
科目責任者	岩波浩美	そ の 他			
担当教員	岩波浩美、田村文子、大澤真奈美、行田智子、飯田苗恵、巴山玉蓮				
授業の概要	国内外における看護職者の活動及び過去・現在・未来に亘る役割と機能の変化を学習し、その特徴を理解する。この授業においては、様々な場において活動する看護職者に焦点を当て、その役割と機能の共通性、相違性、多様性を学習する。具体的には、人々が生活する地域を対象に看護活動を展開する看護職者である保健師、学校保健に関わる養護教諭、生命の誕生に関わる助産師等の様々な看護職者の役割や活動をはじめ、看護職者の専門性、様々な役割とその活動の実態を学習する。さらに、諸外国で活躍する様々な看護職者の活動を学習し、看護職者の役割と機能について理解する。				
学 科 目 的 学 科 目 標	<p>目的：看護職者の様々な活動の実際と、それらの共通性、相違性、多様性を学習することを通し、看護職者の役割と機能の特徴を理解する。</p> <p>目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 過去・現在・未来の看護職者の役割と機能の変遷を理解する 2. 看護師の活動の場と看護の対象、活動の実際と特徴を理解する 3. 保健師の活動の場と看護の対象、活動の実際と特徴を理解する 4. 助産師の活動の場と看護の対象、活動の実際を理解する 5. 健康の保持増進に向けた看護職の教育的活動の実際を理解する 6. 看護職の役割拡大に伴う活動の専門分化とその実際を理解する 7. 看護専門職の活動を支える職能団体、学会について学習し、看護学の意義を理解する 				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1	1. 看護職者の役割と機能の変遷 2. 看護師の役割① 病院に勤務する看護師の活動	講義	毎回、学習課題を提示	岩波
	2	3. 看護師の役割② 健康の保持増進に向けた教育的活動			田村
	3	3. 保健師の役割 行政、学校、企業（事業所）に勤務する 看護職の活動の実際			大澤
	4	4. 助産師の役割 多様な場における活動の実際 看護師との連携			行田
	5	5. 看護師の役割③ 訪問看護に従事する看護師の活動 医療施設との連携 急速な社会の変化に伴う活動の場の拡大			飯田
	6	6. 看護職者の役割拡大と専門分化 専門・認定看護師の役割と、活動の実際 社会の変化に伴い求められる役割・機能			巴山
	7	7. 看護専門職の活動を支える組織： 職能団体、学術団体、大学の機能 まとめ			岩波
評価方法	出席（5%）+ 課題レポート（20%）+ まとめレポート（75%）				
教科書	指定しない				
参考書 参考文献等	社団法人 日本看護協会 監修 『新版 看護者の基本的責務一定義・概念/基本法/倫理』（株）日本看護協会出版会 2006. 看護史研究会 『看護学生のための日本看護史』医学書院 2003.				
備考	特になし				

科目区分	専門教育科目 専門科目 看護専門職の役割と機能			聴講	否
授業科目名	看護専門職の役割と機能Ⅱ-1 (総合実習)		科目履修	否	単位互換
科目番号	N14009	クラス番号	N1		
授業形式	実習		必修選択区分	選択必修	
開講時期	4年次 前期 Semester		単 位	2単位 90時間	
科目責任者	巴山玉蓮		そ の 他		
担当教員	生涯発達看護学教員、地域健康看護学教員				
授業の概要	<p>人種・民族・年齢・性別の異なるあらゆる対象に対し、必要に応じて看護を実践する重要性を理解する。また、そのために看護職者が果たす様々な役割と機能を学習する。</p> <p>関心の高い専門領域を選択し、病院や地域などの実践現場において個人または集団を対象とし、個別性にあわせた看護を展開する。これを通して、生涯発達看護学、地域健康看護学における学習成果を統合し、あらゆる対象に対して看護を実践する意義を理解する。</p> <p>また、学生ここの学習過程を共有・統合し、各専門領域において看護職者が果たす役割と機能を理解する。</p>				
学 科 目 的 学 科 目 標	<p>目的：生涯発達看護学、地域健康看護学における学習を統合し、様々な場において生活する人種・民族・年齢・性別の異なるあらゆる対象に対し、必要に応じて看護を実践する重要性を理解する。この過程を通し、対象が持つ健康上の問題の解決ならびに問題発生回避に向けて看護職者が果たす様々な役割と機能を学習する。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. これまでの実習経験に基づき、関心のある専門領域を選択する。 2. 選択した専門領域において、クライアントやその家族、他の看護職者、医療職者と相互行為を展開する。 3. 展開した相互行為を通して、各専門領域に応じた看護を展開するために必要な知識・技術・態度を理解する。 4. 展開した相互行為を通して、各専門領域において看護専門職が果たす役割と機能の特徴を考察する。 5. 実習全体を通して、各専門領域においてより質の高い看護を展開するために必要な学習課題を明確にする。 6. 実習全体を通して、看護学に関して、既習の学習内容を基盤として継続的・自律的に学習を深める意義を確認する。 				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1	オリエンテーション・学内演習	演習	事前： ・実習ガイドライン必読 ・実習フィールドごとに必要な課題を提示 事後： ・実習終了後、フィールドごとにレポートを提示	生涯発達看護学・地域健康看護学 担当教員
	2	学内演習	演習		
	3～8	各フィールドにおける実習	実習		
	9～10	学内演習	演習		
<p>【期間】 2週間：平成26年6月30日(月)～7月11日(金)</p> <p>【場所】 担当教員が専門に応じて実習場所を決定する。</p> <p>【グループ編成】 1グループ3～6名を原則とし、学生の希望を優先しながら調整する。</p> <p>【方法】 学生は、これまでの学習経験に基づき、関心の高い専門領域(母胎期、乳幼児期・学童期、思春期・青年期、成人期、老年期の対象にある看護、家庭環境における看護、就労環境における看護など)を自ら選択し、個々の対象や家族、他の看護職者、医療職者と相互行為を展開し、より質の高い看護を展開するために必要な看護職者の役割と機能を学習する。</p>					
評価方法	各担当教員(実習領域)が設定した行動目標の達成状況(100%)				
教科書	指定なし、各担当教員が提示する。				
参考書 参考文献等	各担当教員が提示する。				
備考	5月中旬にオリエンテーション、6月にフィールド選択と決定の予定				

科目区分	専門教育科目 専門科目 看護専門職の役割と機能			聴講	否
授業科目名	看護専門職の役割と機能Ⅱ-2 (役割移行実習)	科目履修	否	単位互換	否
科目番号	N14010	クラス番号	N1		
授業形式	実習	必修選択区分	自由		
開講時期	4年次 後期semester	単 位	2単位 90時間		
科目責任者	岩波浩美	そ の 他			
担当教員	機能看護学教員、地域健康看護学教員				
授業の概要	看護職者として就業を希望する専門領域と類似したフィールドにおいて看護学実習を行う。保健医療チームメンバーとして看護実践に参加し、これまで学習した基礎的知識・技術・態度の獲得状況を自己評価する。また、職業人としての責務を果たすために今後獲得する必要のある専門的知識・技術・態度を考察する。				
学 科 目 的 学 科 目 標	<p>目的：学習者である看護学生と職業人である看護職者の役割及び機能の相違について学習し、直面した問題を学術的・自律的に解決する重要性を理解する。</p> <p>目標：1. 看護学生から看護職者への役割移行の特徴を理解する。 2. 選択したフィールドに応じた実習計画を作成する。 3. 保健医療チームメンバーとして看護実践に参加する。 4. 役割移行に伴い直面する問題を学術的・自律的に解決する重要性を認める。</p>				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1	オリエンテーション・学内演習(1)	講義 演習	実習計画の作成・洗練	受講者数に応じて担当教員を決定
	2	実習フィールドにおける看護実践(1)	実習	実習記録の整理 実践の自己評価 実習計画の作成	
	3	実習フィールドにおける看護実践(2)	実習	中間評価 課題の明確化	
	4	学内演習(2)	演習	実習記録の整理 実践の自己評価 実習計画の作成	
	5	実習フィールドにおける看護実践(3)	実習	実習記録の整理 実践の自己評価 実習計画の作成	
	6	実習フィールドにおける看護実践(4)	実習	課題達成状況の確認	
	7	実習フィールドにおける看護実践(5)	実習	学習成果の自己評価 目標達成状況の確認	
	8	学内演習	演習		
9	学内演習 レポート提出	演習			
	<p>【期間】 2週間(9日間) 予定：平成27年2月23日(月)から3月6日(金)</p> <p>【場所】 県立心臓血管センター，県立がんセンター，県立精神医療センター，県立小児医療センター，前橋赤十字病院，伊勢崎市民病院，赤城病院，群馬県内の保健福祉事務所，市町村保健センターなど</p> <p>【時間】 実習場所に応じて設定</p> <p>【方法】 学生が選択したフィールドにおいて実習を行う。保健医療チームのメンバーとして看護実践に参加することを通し、看護学生から看護職者への役割移行に伴う課題を克服するための方法を修得する。</p>				
評価方法	行動目標の達成状況(100%)				
教科書	指定なし				
参 考 書 参 考 文 献 等	<p>1. パトリシア・ベナー；井部俊子他訳：ベナー看護論—初心者から達人へ 新訳版，医学書院，2005.</p> <p>2. 日本看護協会：日本看護協会看護業務基準集—2007年改訂版，日本看護協会出版会，2007.</p> <p>3. 筒井孝子：看護量の測定および推定のための方法論に関する研究—看護業務分類コードの作成について，看護管理，7(12)，890-900，1997.</p> <p>4. 森真由美他：新人看護師行動の概念化，看護教育学研究，13(1)，51-64，2004.</p> <p>5. 塚本友栄他：就職後早期に退職した新人看護師の経験に関する研究—就業を継続できた看護師の経験との比較を通して，看護教育学研究，17(1)，22-35，2008.</p>				
備 考	<p>※履修登録期間中に別途オリエンテーションを実施予定</p> <p>※履修登録終了後に実習フィールドを確認・調整予定</p>				

科目区分	専門教育科目 専門科目 看護専門職の役割と機能			聴講	可	
授業科目名	看護学研究概論	科目履修	可	単位互換	否	
科目番号	N14011	クラス番号	N1			
授業形式	講義	必修選択区分	必修			
開講時期	3年次 前期セメスター	単位	1単位 15時間			
科目責任者	岩波浩美	その他				
担当教員	岩波浩美					
授業の概要	<p>学術研究の領域と方法論、看護学に関する研究にはどのようなものがあるか、その特徴を学習する。研究成果の活用に有効な論文を選択するためには、論文全体を読解することが不可欠である。この授業においては、看護学研究の理解、研究論文の読解、研究成果活用に必要な基礎的知識を学習する。</p>					
学科目的 学科目標	<p>目的：看護学研究の意義と特徴を学習し、研究成果を実践に活用するための基礎的知識を学習する。</p> <p>目標：1. 看護学研究に用いられる基本的な用語を理解する。 2. 研究の過程を理解し、既存の研究成果を理解するための基礎知識を習得する。 3. 看護学研究の成果を実践に活用するための課題を考察する。 4. 学術的・自律的な問題解決に向けて研究成果を活用する意義を認める。</p>					
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習 (学習課題)	担当	
	1	I. 看護学研究の意義と特徴 －研究とは何か －看護学研究の定義	講義	『看護における研究』第1章を精読する	岩波	
	2	II. 研究成果活用の意義と実際 －看護実践と研究成果 －研究成果活用の過程 －研究成果活用による看護実践上の問題解決		『看護における研究』第10章を精読する		
	3	III. 研究過程と研究論文の構成要素 －研究過程 －研究論文の構成要素 －研究批評		自己の興味や関心に従い、看護実践上の問題を記述する		
	4	III. 看護学研究のデザイン(1) －質的研究		『看護における研究』第5章を精読する		
	5	IV. 看護学研究のデザイン(2) －量的研究		資料「ニュールンベルク綱領」を精読する		
	6	V. 研究と倫理 －研究における倫理 －看護学研究における研究対象者の権利擁護		『看護における研究』第3章を精読する		
	7	VI. 研究成果活用のための文献検索 －研究成果を入手する方法 －文献検索の意義と目的		自己の興味や関心に従い、文献を入手する		
		<p>【レポート課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己の興味や関心に従い、文献を検索して入手し、看護学研究の論文を精読する。 授業を通して学習した知識を活用し、精読した文献の内容を所定の様式に要約する。 精読した研究論文を通して、明らかになったこと、明らかにならなかったことを論述する。 				
評価方法	レポート(100%)					
教科書	南裕子編：看護における研究，日本看護協会出版会，2008.					
参考書 参考文献等	山崎茂明他：看護研究のための文献検索ガイド 第4版増補版，日本看護協会出版会，2010.					
備考	特になし					

科目区分	専門教育科目 専門科目 看護専門職の役割と機能			聴講	否
授業科目名	看護学研究Ⅰ（問題解決過程）		科目履修	否	単位互換
科目番号	N14012	クラス番号	N1		
授業形式	演習	必修選択区分	必修		
開講時期	4年次 前期 Semester	単 位	1単位 30時間		
科目責任者	廣瀬規代美	そ の 他			
担当教員	廣瀬規代美、河内美江（菱谷純子）、樋貝繁香、関根正、狩野太郎、岩波浩美、田淵祥恵、服部美香、小野寺洋子、木村美香				
授業の概要	この授業においては、小グループ制の授業を展開し、看護実践上の問題解決に向けて看護学研究を検索し、成果を活用するための方法を学習する。学生は、看護学の学習を通して日々感じている問題を明らかにする。また、学習グループを形成し、焦点化したテーマ（問題）に関連する文献検索を通して学術的に解決する過程を体験する。				
学 科 目 的 学 科 目 標	<p>学科目的:看護実践上の問題解決に向けて看護学研究を検索し、成果を活用するための方法を学習する。</p> <p>学科目標: 1. 問題解決に向けて、看護学研究を検索し、成果を活用するための方法を理解する。</p> <p>2. 看護学の学習を通して感じている問題からグループテーマを焦点化し、看護学研究の成果を活用した問題解決過程を実施する。</p> <p>3. グループ討議・成果発表において主体的に学習活動を展開する。</p> <p>4. 看護学研究の成果を活用した問題解決過程の価値を認める。</p>				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1	授業の目的・目標及び学習方法の理解 ①授業科目の位置づけと目的・目標 ②看護学研究の成果を活用した問題解決過程の概要 ③用語の定義 ④関心領域、解決したい問題によるグループ形成	講義 演習	<事前学習> 看護学の学習を通じ感じている問題を指定用紙に記載し提出する。	廣瀬
	2	文献検索の意義と方法 ①文献検索と文献の活用 ②文献精読と文献カードの整理方法	講義	<事前学習> 演習と並行し、グループ討議に向け、各自文献を精読し、文献カードに整理する。 <事後学習> 演習終了後、レポート課題「看護学研究Ⅰを通して学んだこと」を提出する。	廣瀬
	3	問題解決過程の体験（グループワーク） ①グループにおける問題の共通性による問題解決に向けたテーマの焦点化・成文化（グループ討議） ②問題解決に向けた文献検索の実際と文献入手 ③文献精読による内容の理解、文献整理 ④問題解決に向けた文献の選択 ⑤選択した看護学研究の共通点・相違点の明確化 ⑥学習成果発表に向けた内容の整理	演習		廣瀬 河内 (菱谷) 樋貝 関根 狩野 岩波 田淵 服部 小野寺 木村
	4				
	5				
	6				
	7				
	8				
	9				
	10				
	11				
	12				
	13	学習成果発表（グループワーク）及びまとめ ①研究成果を活用した問題解決過程の発表と理解 ②発表内容に関する質疑応答			
	14				
15					
評価方法	行動目標の達成状況 90%、出席状況 10%				
教科書	指定なし／講義にて別途資料配布				
参考書 参考文献等	南裕子編:看護における研究 日本看護協会出版会 2009 山崎茂明他:看護研究のための文献検索ガイド 第4版 2010 講義中に必要に応じて適宜提示する。				
備考	本科目は、4月集中科目である。日程は別途提示する。				

科目区分	専門教育科目 専門科目 看護専門職の役割と機能			聴講	否
授業科目名	看護学研究Ⅱ (EBP)		科目履修	否	単位互換
科目番号	N14013	クラス番号	N1		
授業形式	実習	必修選択区分	必修		
開講時期	4年次 後期semester	単 位	4単位 180時間		
科目責任者	小川妙子	そ の 他			
担当教員	看護技術学・機能看護学・生涯発達看護学・地域健康看護学全教員				
授業の概要	看護において研究成果を活用する意義を学習し、看護実践に必要な研究成果を探索・発見し、実践に活用する方法を学習する。関心の高い専門領域を選択し、対象の持つ問題を解決するために研究成果を活用した実践を立案し、病院・地域などの実践現場においてその実践の展開を試みる。また、これら一連の過程を論文としてまとめる。				
学 科 目 的 標	<p>目的：看護において研究成果を活用する意義を学習し、看護実践に必要な研究成果を探索・発見し、実践に活用する方法を学習する。</p> <p>目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護実践を展開するうえで、研究成果の活用（研究的な過程を含む）を通して解決したい問題を明確化し、テーマを決定する。 2. 文献検討を実施し、問題解決に有効な研究成果や看護理論等を探索する。 3. 探索した研究成果を活用し、問題解決に向けた研究成果活用計画書を作成する。 4. 研究成果活用計画書に沿って、データ収集・分析を実施する。 5. 結果を論述し、考察する。 6. 実施した一連の過程を研究論文の形式に則って論述する。 7. 実施した一連の過程を研究発表の形式に則って発表する。 8. 研究成果の活用（研究的な過程を含む）を通して、看護実践上の問題を解決することに意義を見いだす。 				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1	オリエンテーション	講義	課題の探求 行動目標の理解	科目責任者
	2	「研究成果活用計画書の作成」について	講義 領域毎	文献検討 計画書の作成	学生の関心に基づき 担当教員と相談の上 決定
	3	「倫理的配慮」について	講義 領域毎	必要時、倫理委員 会の審査を受ける	
	4-6	研究成果活用計画書の作成	演習		
	7-16	研究成果を活用した看護実践 *90時間、2週間程度の研修を含む	実習	看護実践の準備 倫理審査チェックリストの確認	
	17-20	データ分析、考察	演習	計画書に沿った 分析、考察	
	21-25	論文作成	演習	規定との照合	
	26-27	抄録、発表原稿の作成	演習	規定との照合 効果的な発表	
	28-29	学習成果発表会における発表と質疑応答	演習 領域毎	他の分野の発表 会への参加	
30	「研究成果を活用する意義」について	演習	行動目標確認 自己評価		
評価方法	行動目標の達成状況 100% (各領域別の行動目標による評価表)				
教科書	指定しない				
参考書 参考文献等	「看護学研究概論」「看護学研究Ⅰ」配布資料 ・南裕子編：看護における研究 日本看護協会出版会 等				
備考	・別途、EBP実施要項を配布します。主体的な学習が必要不可欠です。 ・履修の先行要件は、原則として、必修の専門基礎科目及び専門科目の単位を修得 あるいは修得見込みであること				